

お話し伺いメモ 2002

「あの突然の揺れとすべてを覆した自然の猛威は、8年目を迎えた今でも一瞬も忘れられず、むしろ新しい色合いと発見を日々生み出しているその被災地に、人々の声に耳を傾け、自らに新しい学びを課せる週末ボランティアのお話し伺い訪問メモをご覧ください。共に未来を見つめるために。」

週末ボランティアの被災者宅へのお話し伺い訪問は、2001年4月からは第2、第4の土曜日に行われることとなりました。

プライバシー保護のため、内容には一部修正を入れてありますことをご了解ください。

1月12日、1月26日

・60代女性、一人暮らし。被災時、住んでいた文化住宅が全壊した。2階で就寝中で、タンスの下敷きになったが怪我はなかった。芦屋市は震災時、態勢が取れてなくて、避難所に入れない、食べ物がない、という状態だったので、コープの女子寮の廊下に並んで座っていた。次の日、友人の家に寄せてもらい、西宮へ。市営住宅の空家、武庫之荘団地等を経て、昨年1月このペットが飼える住宅の空家募集に応募して当選した。住宅にはツイていると思う。震災で何もかも失ったけれど、亡くなられた人のことを考えると、何もぜいたくは言わない。ペットは猫のホームズ君。飼い始めて15年の白い猫。震災時は姿を消していたが、大家さんの家の庭にあらわれて、しばらく怒っていた。団地では禁止されている猫を飼っていると、猫にも自分にもストレスになっていた。今は猫と口げんかしながら暮らしています。(堀内、籠嶋、篠原)

・50代男性、息子さんと2人暮らし。ドアを開くと犬が慌てて中へ入っていった。「怖だからロッキーは」言いながら部屋へ上げてくれた。ロッキーは10歳になる犬のこと。被災体験など詳しくお話しを伺う。垂水区の塩屋で被災、全壊、小学校に避難。そこから六甲アイランドの仮設に移り、移った翌日奥さんが倒れ、明石の病院へ入院したがすぐに死んでしまった。引越しなどの心労がたまっていたのだろう。それからは息子さんとロッキーとの3人暮らし。ロッキーがいたからつらいことも乗り越えることができた。この新聞はわしの宝もんや、と言って一緒に写った写真を見せていただく。生活のことでつらいのは食事。料理が面倒で作るとしたらラーメンぐらい。西神にある工場で働いているが、この工場も今月末でクビだ。今後のことが心配。50を過ぎて仕事はない。近所の人とはできるだけ話しをするようにしている。みんな仮設の時がよいと言ってるわ。この住宅でも4、5人亡くなっている。年寄りが多い。また来てくれ。今日は寒い中ご苦労さん。(中山、坂本、華山)

・60代女性、夫婦2人暮らし。被災者同士だからお互い様やと思って親切をすると、関係のない方から迷惑だと言われ悪口雑言受れたり、近くの家の方に弱いものイジメがなされたり、先日も駐車場に車を止めておいたら2回も車上荒しに遭ったり、と散々な話し。仮設がよかった、その頃来てくれたボランティアの人がくれたものを見ると涙が出る、とのこと。最後に頑張ってみますわー、とお話しを終わる。(中市、坂本、籠嶋)

・79歳男性、一人暮らし。暖かい紅茶とチョコドーナツを用意してくださり、ほとんど雑談と言うお話し伺い。震災で肺炎を患い、ここへ来てから腸と腰を痛めた。「仮設の頃には住宅に入る、という目標があったからねー」、「住民が仲良くなるには5～10年ぐらいかけるよ。わし等

が死んでからやなー」と笑われる。学校やヘルパーさんの話し、また、別居している家族の話しや大好きな旅行の話しなど、多くのお話しを伺った。(坂本、中市、籠嶋)

・50代後半女性、夫と子どもと3人暮らし。2階建ての家がペチャンコ。板の下に潜り込んだ形で無事。真っ暗で寝巻きのまま屋根をはぐったら子どもがいた。家を見に来てくれた人はペチャンコの家を見て、もうダメだと思ってボロボロと泣いたそうだ。脱出した時に6時の目覚し時計がなったのを覚えている。ゴー、どんどんの音のみ。たまたま寝ていたからよかったが、火を使っていたらどうなったか解らない。空き地の土管の中や車でも寝た。テントを建てて寝た。家に入るのが怖かったので6月までそこにいたが、やがて西区の仮設へ移った。仮設では楽しくしていた。友達も多かった。戸を開ければもう付き合いが始まる。気をつかわない裸の付き合いだった。寂しくはなかった。ここへ移ってきた時はワンちゃんと一緒であったが、移ってからすぐに亡くなってしまった。夫は元の場所に戻りたいみたいだが、お金がなければ帰れない。須磨区の社会福祉協議会の生活復興相談員から「平成13年3月末で訪問は終わりになります」との通知を受けたチラシを見せていただく。各種の援助金の申し込みも終わったしと、今思えば苦しいこともなかったが、心配と言えば住むところの心配だけ、と様々お話しを伺った。(佐沢、東條)

・50代前半男性、奥さんと子どもと3人にワンちゃん3匹。建築業をやっているが、この3年はよかったが、このごろにわかになんか仕事なくなった。ここはまだ、言ったもん勝ち、やったもん勝ち。ルールができて生活が落ち着くのに10年はかけるやろう。元の場所に帰りたいが、家賃や駐車場代などの負担に耐えられないだろう。この新しい地域で新しいルールができるのを待って、暮らしていくしかないだろう。ペット問題では人間性がとつてもよくあられる。直らない。とベランダでお話しを伺った。(佐沢、東條)

2月9日

・灘区で被災。最近、集会所で毎日みんなとおしゃべりしている。10人ほどの決まったグループで、他の方々は家に居るのだろう。「お年寄りも結構元気よ」とのこと。しかし「坂が多くて外へ出るのがおっくうなので、タクシーを使う。近くのローソンに行くのも難儀。誰かおしゃべりながらなら上がるが、一人ではおっくうになる。結局お金がかかる。おまけに路上駐車が多く危ない。事故がないのが不思議なくらい。知人が来ても車を止められない。ここは車でないと来られないんでしょうね。ここは「便利がよい様で悪い」。文化住宅で2階がペチャンコになって、上の人のテレビに当たって下の人が亡くなったのを見た。声の出ないところは死んでるやろうと後回しで、ほっておかれた様だ。火災で亡くなった人もいたし、「私はまだましな方」と。今でもたまに思い出して目が覚める。が、「ここが倒れるくらいやったら、他でなっても一緒やし」と思うようになっている。(志知、華山、増田、長船)

・震災後は「長かったような、短かったような人生」という70代ご夫妻に伺う。しんどい時にタクシーを使ったらお金がなくなる。今は年金8万円に家賃7900円を払っている。貯金も底について来ている。「地震の時に死んでいればよかった」と振りかえられる。木造の2階に寝ていた。「ハンモックで揺すられたみたい」だった。やっとアルミ製の戸から逃げ出した。長田の街が燃えるのを見ていた。生活保護の資料をお渡しした。「一度、役所に行ってみるわ」「少し恥ずかしいかと思っていたが、今話しをして見てすっきりした」、「寿命がある限り生きなあかんし。自分が悪いと思うて生きてきた。こんなんばっかりや。自分の身の上のこととかはめ

ったに人に言わへんし。たまってたんや。」と兆時間のお話を伺う。(志知、華山、増田、長船)

・80代後半女性、一人暮らし。新築7年の家が、地震では壊れなかったのに火事で全部焼けてしまった。着物も何もない。ご主人が亡くなってからずっと一人暮らしで慣れて来た。民謡や唄の習い事で長田までよく出かける。「踊りはこっち向いたら忘れよってですね。唄だけですわ。」
「興味があるのは、小泉さんとか政治関係。田中元外務大臣等のネタになると新聞に赤線を引いたりする。」「杜氏よりは皆おもしろいよって、みとりはりますわ」とのこと。他の人とは外であつたら話すだけで、わざわざ家に入ってまで話したりはしない。他の人はしんどいとか身体の調子が悪いとか言った話しをしてくるには同情するけれど自分は言っても仕方がない、と。仮設住宅では家賃を払わなくてよかった。今では家賃を払うのが馬鹿らしい。エレベーターで出会ってからそのまま訪問し、楽しくお話を伺う。(矢野、志知、佐藤)

2月23日

・80代女性、一人暮らし。この復興住宅は入居の条件に、動く歩道を設置してくれることになっていたのに。それができていないのでこのシルバー棟が一番不便で危ない場所になった。40年以上住んでいた家が全壊、玄関のわずかな隙間から脱出した。隣の奥さんは亡くなられた。親からのしついで「大切なものは一まとめにする様に」言われていて助かった。震災後かなり経っているので「ボランティアには甘えられない」と心掛けている。住宅内ではなかなか本音で話せる機会がない。でも「あなた達ボランティアには何でも話せる」と言われて2時間のお話し伺い。戦争の時、12月25日に赤紙が来て、震えていた。私は「彼」を励まして送り出した。関東大震災の時、1ヶ月間野宿した話し。津波にやられ朝になったら船が橋の上に座っていた、と昭和20年の南海大地震の話し。(白岩、石川)

・80代男性一人暮らし。灘に50年以上住んでいたもので、どうしても灘に帰りたい。仮設住宅は六甲アイランドだった。軍隊生活で「耐える」ことを学んだが、まあそれも役に立った。仕事で大きな怪我をしたがそれぐらいで身体は丈夫な方。約1時間かなり大声でたくさん語ってくださった。時間のため帰るのがはばかられた。(白岩、矢野)

・80代女性、一人暮らし。兵庫で被災、全壊だったが残った2階でしばらく寝泊りしていた。登り坂の極めてきつい県住に役所の紹介で越したが参った。3年目にやっとここへ移ったので、この坂は何ともない。今は毎日外出している。気が張っているからここまでこれたと思う。「今日はたくさんしゃべったが、ご迷惑ではなかったですか。本当ありがとうございます。また来てください」と小1時間の訪問を終わる。(中山、坂本)

・70代女性、一人暮らし。インターホン越しに「風邪で寝ているので」と断られた後、突然ドアが開き、中へいざなわれて1時間以上のお話し伺いとなった。真面目そうな若い人達だったので、とのこと。新長田の家が全壊したがもう年だし再建していない。朝早くから起きて働き続けているので、生活保護の人達とは話しが合わない。買物にはタクシーで行く。名谷まで1060円。ここの坂道はつらい。ヒールの高い若い人達はこけそうになりいやだと言っている。不法駐車が多く子どもが飛び出して危ない。下の店は店員教育が行き届いて感じがよい。が生鮮食料品がなくて困る。訪問者の一人一人に「じみやな、もっと派手にして輝かな」、「しっかり働いて、勉強して親御さんを安心してやり」、「ええ、東尻池に住んどったん。そうか、あんさんも長田かいな」と涙ぐみながらのお話しも。(中山、矢野、坂本)

・60代男性、一人暮らし。僕は被災者ちゃうで。病気になって仕事ができなくなって神戸に帰ってきた。糖尿も心臓も重なってお金もなくなり、生活保護と年金で暮らしている。さんざん遊び歩いたのもうええ。病院に行ってもセンセが妙に優しいからもう長くないやろ、今日明日死ぬのも怖くない。と2時間半のお話を伺う。週末ボランティアが来るというチラシを見て、「被災者だけが入居してるんでない。オレらみたいな「特定」で入った人もいるということを知ってほしかった」。被災者でないことを理由に陰で悪口を言われることもある。被災者でない差別を感じることもある、との言葉も。仕事が盛んだった頃のお話と、珍しい知識と、派手に活躍していた頃のお話をさまざま伺う。(猪上、佐藤、籠嶋)

・70代男性、一人暮らし。自宅全壊。この時に首に何か当たったらしい。脊髄が故障して手や腰がしびれたり痛くなったりする。坂はゆっくりだったら歩ける。ちょっと買物するにも店は無いし、出たら1週間分のものを買ってくるけどそれが不便。冬はよいけど夏場が不便。こいつか新しい店できると思ってたのに、これだけ開けてきているのに、と不思議がられる。(長船、華山、なめ田)

・70代女性、一人暮らし。支援シートに自筆書きこみいただき、物干し修理の依頼もあり直す。「かみひこうき」をテレビで見たことがあると言われる。夏の西日がたまらんですわ。スーパーがないのが困りますわ。マクドなんか要らんのにねー、と嘆かれる。「机の上で考えたようなシルバーハウスとかとちょっとちがうわな。センサーとか守ってくれとるとか言うけれど、何かな?」。昔からの家族の間柄のような知人の手厚いお世話になり、今は何とか食事も自分で作り、感謝の毎日です。と退院間もない身体を労わりつつのお話を伺う。(長船、華山、なめ田)

3月9日

・80代後半女性須磨区で被災。朝早く神社へのお参りに出かける途中、道で地震に合い、突き上げてくる地面に倒されて背中を打ち入院した。それ以来、首にコルセットをしなければならなくなった。人に呼ばれてもすぐに振り向けず、聞こえているのかと思われる。「この団地は坂がきつくてたいへん。こんなところへ障害者を多く入れて市はひどいことをする。エスカレータをつけるというのだが、エスカレータの「エ」の字も見あたらずへん」とウソをついてまで入れた市のやり方にプンプンだった。それでも慣れて来ると、ここは空気もよく朝はウグイスも鳴き気持ちのよいところ、と今はお気に入りの様子。散歩中、坂がきついので坂の途中、道の端に座って休憩していると、皆が心配して声をかけてくれる。「皆さんからよくしてもらって幸せです」と感謝の気持ちを言われた。ヘルパーさんにも週に一度買物をしてもらっている。ご家族の病気の心配などお話を伺う。(鹿島)

・70代前半の女性。来た時は西も東も解らない人ばかりだったが、3、4年経って気心もやっと解るようになってきた。毎日午後、団欒の部屋で集まっておかしを食べたりいろいろ話したりする。ここは坂が多くてよう外に出ない。買物の帰りはタクシーで千5、6百円かかる。若い人が親身になってくれる。ここは寒くてふもととは2、3度ちがいますね。エスカレータがつく予定だったんですが、棟が多く、迷う人が居ますね。一時スロープに目印代わりにリボンがつけられていましたよ、と様々生活のお話を伺う。(矢野、森、中山)

・60代後半女性、ご主人と2人暮らし。東須磨で被災。「ボランティアという言葉は嫌いや」と言われるお母さんと話しこむ。「奉仕と言うことでしょ?」と実は奉仕活動40年以上の由。今

は料理や人形劇を障害者向けにやってもう13年になるとのこと。仮設に1年、3年目にここが当たって移り住む。「ボランティアはやっぱり好きでやらなくちゃね。楽しくなければ続けられないですよ」とボランティアの大先輩からとても勉強になる話を伺う。(猪上、華山)

・70代女性、一人暮らし。「3年前ここへ来てから主人が亡くなりました。その後気分が悪くなって医者に行くと、脳梗塞の疑いがあると言われました。一人暮らしなのでやはり気になります。だんだん目も悪くなって、字を読むのがおっくうになる。」「この辺は地震の前は山で、野草がたくさんあった。主人は野原を歩くのが好きだからよ花を取ってきたりしていた。3~40年くらい前には洞窟みたいなものもあった。ここが当たった時には昔のイメージがやっぱりあったが、来て見ると住宅が建っていてすっかり変わっていた。」「震災後に役所に行ったらひどいこともあったよ。舞子の全壊したマンションの更地になったところの写真を撮って来いと言われた。その時は大阪に居る姉の家に住んでいたが、カメラもよう扱えへんので、使い捨てのを買ってきて何とかしたが、たいへんやった…。今は何とか元気なので、生きていくしかないね。」とお話しを伺う。(猪上、華山)

・70代女性、一人暮らし。車椅子は下りが怖い。男の人でもたいへんそう。坂の上にシルバーハイツと言うのもおかしいのでは？ ここに来た時には杖で歩いていたが今は車椅子で。震災の時に腰を痛めた。前の市の住宅は3階でエレベーターなし。階段の上がり下がりです。苦労した。「外出の時に車椅子を押してくれるボランティアは居ますか？」と聞かれる。「年とるのっていややなー。若い時は考えていなかったけれど。私らは戦争の時代が青春時代やったな。今、英語がわからへんから不自由よ。学校でもノートなんて言葉使えずに雑記帳と言っていた。」「空襲で家つぶれて、地震で家つぶれて、長生きしたくないな。いややなー」といいながら「最近国会にはまっている」と言われる笑顔の素適なお母さん。お話し中に「急ぎますか？」と問われ、「いいえー、他の人もまわっていますから」というと「じゃあ紅茶でも入れましょうかねー」とニコニコ暖かい1時間の訪問でした。(佐藤、長船)

3月23日

・60代後半女性、一人暮らし。65歳まではヘルパーをしていた。私は被災者ではない。ポーアイの公団に住んでいたが建物は壊れなかった。公団は家賃がどんどん高くなっていったので、空家募集をしていたここへ申し込んで当たった。運がよかったわ。この階の人とは、震災の話は合わないが仲良くやっています。同じ60代や70代の人など、お子さんなどもいらっしゃるお宅もあってにぎやかです。ゴミ掃除当番をやらない人もいるけど、やろうという人だけでやっている。無理に誘うわけにもいかへんし。うちも娘がたまに来るけど、一人は気楽ですよ。孫とか毎日顔をあわすのはいやになる時もある。たまに会うのがよい。年金制度や結婚についてなど訪問者にいろいろご助言いただいた。(猪上、伊東、永田)

・80代女性、一人暮らし。何を話せばよいの？と最初は困惑気味。「もう年をとったら耳がねー」「仮設住宅に年寄りばかり残して、と市に怒ってね」、「シルバー言われてもね~みじめな気がしてね、自分がやで？」などとお話し伺い。西日が当たると夏はしんどくて家の中におられへん。マンション自体では交流がないから、自分から食事会などへ行かねば。号棟ごと、年齢ごとの付き合いだけでと言う考えもある。また葬式、また葬式と亡くなった方が多いです。LSAの人が昔はよくまわってきていたが、最近はあまり来なくなりました。廊下を歩くだけでほとんど意味がないような…。12時間認知されないと音が鳴るシステムがあるけれど、戸を閉めてし

まうと聞こえない。そしてあの坂がきつい。上の方の公園でラジオ体操していたけれど、ここから行っていたのは私だけですわ。野菜を売りに来るけれど、丸ごと買わねばならないので腐ってしまう。スーパーなどあれば半切り四つ切でも売ってるのに。地震の前に犬がなんや変な泣き声でねー。自分の家は屋根がなくなったぐらいでどうってことないと思ってたけれど、あたりを見回すと2階建てがガターツと崩れてて怖かったワ。地割れも見てこんななるンやねーと怖かった。今より、仮設住宅の時の方が楽しかった。晩御飯食べるのに5、6人集まってねー。仮設の友達はまだにお花見行こうとか花買いに行こうとか誘われて、いこかーとかあんまり断らない。この方が寂しい。(佐藤、小林)

・60代後半女性、一人暮らし。避難所で1ヶ月ほど暮らし、息子に迎えに来てもらって関東に半年住んでいたけれど、その間、仮設住宅の抽選のために5回くらい神戸との間を往復した。交通費がなくて解約しやすい生命保険を解約して交通費にしました。仮設に入ってから大手術を行い、今思うとあの頃はぎょうさん金を使った。百万円くらいの義援金はすぐにパーですわ。これからも交通費と医療費が一番の問題です。他の棟などで、震災に遭っていない人も入って来たりして、ものの考え方などが違うのでやりにくい、というが、ひがみとちがう？ 自分は病気や安否の話などする。なんやかんやあって1週間が短い。「ねえ、どうにかこうにか多かれ少なかれ病気してね、震災に遭ってみな一緒なんだけど、ぜいたくは言われへん。」(佐藤、小林)

4月13日

・70代女性、一人暮らし。須磨区で被災、全壊。半年前に腰の怪我をして調子も悪く、気分がすぐれず元気がない。10年前に神戸に子どもに連れられて出てきた。編物をしていて外にあまり出ない。運動不足で近所付き合いもあまりない。ときどきボランティアが来る。ヘルパーさんは断った。と盛りあがりかけたところへ電話で中断。(華山、前田、長船)

・50代男性、一人暮らし。地震の時は逃げられずに3階から飛び降りた。忘れたいけど忘れられないですよ。民間ボランティアがサツと来てくれた。全国各地から結構若い人が来てくれてあれっと思った。あの時はみんなたいへんやったんで。避難所に3ヶ月仮設住宅に3年この住宅で4年になる。一番最後に仮設を出て定員割れのここに入居した。病気のため坂道がたいへんで買物も不便。下の道路が夜中の2時3時までうるさくてたいへん。建物は上下の階が反響して更にうるさい。みんなやっぱり経済的にいろいろあって引っ張っている。終わった気がするけど何か引っ張っている。(華山、前田、長船)

・70代ご夫妻。病気のご主人が訪問を待たれていて、支援シートに記入しようとして頑張っていたとのこと。広告裏にマジックで数行の文字。話す間に表情がほころばれ、横になったりしながら奥さんの「通訳」で様々お話しを伺う。奥さんからは坂の交通の不便から買物の悩み、バスに乗る時の買物車の悩みなどが深刻に出され、町内会が今坂道の駐車を無くす運動をしており、マイクロバスを一日数回でよいかから通してほしいとの提案を受けた。ここは空気も建物も良いし、文句はそこだけ。皆被災者ということで仲良く気さくに話もし近所付き合いしている。仲のよいご夫妻で、また訪ねたいと訪問者の感想。地震で1戸建ての家は全壊。隣の文化住宅が家の台所に倒れ込んできた。前の部屋に寝ていて助かった。(坂本、前田、長船)

・70代後半女性、一人暮らし。朝からウォーキングや登山に行くから起きてたんですが、もう2～3分くらい遅かったらバターン！てね…。もう皆、仮設がよかったー、てね。近所付き合い

がね。洗濯機が外にあるからいやでも外に出るからね…、皆よかった～って言いますよ。ここだったら当たる！って言われてね～、灘に帰りたかったけれど当たらんからね～。こんな田舎と思ってたら住んでみたらよいところですよ。ここへ来てよく話しをするようになって、おしゃべりが好きになって誰かとも話すようになった、と楽しそうでした。70歳過ぎてバス地下鉄のタダ券もらってるのがあり難いですね～。よく出かけてエンジョイしてますよ。この階では4年でもう5人が亡くなりました。この階ばかりじゃあないかって言われてね、あはは。(籠島、猪上友子、佐藤)

・80歳男性、一人暮らし。ここどうですか？と聞くと、もう生活には慣れましたわ。気が若いからどうしてもな～、しょぼ～つとしててもしやあないし、カラオケ誘われたら行くし、踊りが好きな方やから。3年8ヶ月兵隊に行った経験者。一人の方が気楽、女おったら金やらなあかんしな一、今さら、女つくって暮らそうとも思わへん。今はもう女の方が強いからゴマすつといたらナー。国会でもみとつたら、あ、こいつくさいな、と解る。ムネオは金集めの先生。皆金もらってるから何も言えへん。と約1時間の怪気炎、お話しを伺う。(猪上友子、佐藤、籠島)

・70代女性、一人暮らし。8ヶ月前に夫君を失う。体重が減り続けるのでおかしと思って医者に行ったらもう手遅れだった。寂しいなんて思ってる暇がないくらい毎日忙しいんですよ。買物に行くのがもういやですねん、たまに食を抜くんですよね。食料品だけのスーパーがあつたらよろしいのに。ここはまあ、不便だから当たったんですわ。ふれあい喫茶なんか行くより家に居る方がよろしいですわ。仮設は西神。この頃の方が楽でしたよ一。(籠島、猪上友子、佐藤)

・70代女性、一人暮らし。上から音が響いてきてびっくりして目が覚める。5キロ痩せた。部屋を替わりたいが余裕がなく一人で悩んでいる。仮設はよかった。仮設の人とは今も電話をしたりして仲良くしている。戦後、台湾から引き上げてきて「いろいろあつたですよ」。一人でポーンとしてしていると昔の日本を思い出す。バラックのところを少しづつ増して2階建てまでした。瓦礫は市に撤去してもらい今はそのまま、空き地になっている。もうここに3年も辛抱しています。掃除や昼食会にもなるべく出ようとしている。まだ薬がないと眠れない、と約1時間のお話し伺い。(大畑、坂本、猪上一生)

4月27日

・50代後半男性、一人暮らし。ここへは入居したばかり。ガードマンの工作中、クモ膜下出血で倒れ、今も真っ直ぐに歩けない。身体は元気で仕事をしたいが、後遺症で口がまわらず素早い動きができない。斜めに歩いてしまう。職につけず生活保護を受けている。「すべて、市の保護で、死なないといけない」とつぶやくが、「死ぬのは怖い」とも言われる。2LDKに1ルームしか使用していないという、テレビの横に無造作に置かれた薬の山。(山下、華山、籠島)

・70代女性、娘さんと2人暮らし。自宅は半壊、垂水の仮設へ、初めからここへ入居。ガンと誤診されたがその後腰が立たなくなった。風邪をひいて鼻血が止まらず病院へ行く。今は元気で今が一番幸せ、と言ってくれました。(山下、華山、籠島)

・60代女性。「足を痛めていて、歩くのがたいへんやねん」とドアノブに手をかけて、何か話しをしたい風で、ずっと立って話しをしてくれました。「夜の騒音がうるさい」と少し顔をゆがめながら言われる。ここに騒音があるという話しはなかった。入ってからうるささに困っている。対策もなく引越したいと考えている、とのこと。買物の交通費がかさむのが頭痛のたね。つい近くで買物を済ませてしまう。坂道もしんどい。2度ほど足を痛めたが今直りかけた

ところ。シルバー人材センターに登録するも、交通費がかかるのであまり仕事は来ないとのこと。戸口で20分、お話しを伺う。(小林、増田、長船)

・80近い女性、一人暮らし。「解決にならんから言っても仕方ないですわあ」と言いながら玄関に入れてくださる。「年とってねえ」、「体力が衰えていてねえ」と話しが進む。冬のコタツは出しっぱなし、力が出にくくなってお米を持つこともままならない。「子どももおらんし心細い」「近所に判らんような死に方しとったらいややなあ」とお話しが進む。110番、119番のことでケイタイ電話の話しになり、プリペイド方式の説明で「そんなん知らんかったわ、ええ話し聞いたねー」と喜ばれ、「もう身の上話し、せーへん思ったんよ」と30分の上がりこみお話し伺い。「世の中便利になっているのは理解していたけど、お金がかけるし若者用とばかり思っていたんよ」とプリ携情報に感謝。(小林、増田、長船)

・70代半ば女性、一人暮らし。3時間半のお話し伺い。始め玄関口で、買物や坂道の困難や冬の寒さのお話しなど。息子さんとの同居の話となり、お家に上がりこむ。足はどうもないんです、腰がなあ、と震災の時の話しになる。2階がなくなって家ほこりだらけの中、逃げるのに必死で何度かこけて、気がつくとも腰から熱が出ていて病院へ行くと「よく辛抱していたな」と、そのまま3ヶ月半入院。今でも後遺症に苦しめられる。特殊な薬を飲んでジットしている。「薬でもっているようなもんですわ」、「私にもあんた達のような若い頃があったのになあ、うらやましいですわ」と話される。大掃除などがあり運動代わりにと出ていくが、血圧の関係からくる寝不足で、感覚や記憶がなくなってきてボケたような状態になる、「夫がなくなった時にもこんなことがあった」。一人やし、暗くなってきたら寂しい、晩になったら心細いしね。「ありがたいな一、今日来てくれるわ」って「早いですわ、人生は…」としみじみ話しこむ。一期一会とは言え、とてもよい出会いを得た。仮設住宅(岩岡)におった時もボランティアにはよくしてもらった。楽しかった。「できることなら死ぬまで仮設にいたかった」と、今でも電話で付き合っている仮設のお友達の話し。普段私らに腰がイタイイタイと言うのに、ボランティアが来たら、どこも悪くありません、と弱いとこ見せへん。私らにはよく愚痴るのにねー、あはは、と。訪問中仮設のお友達から電話がかかる。ここに入ってから、なかなかこういう付き合いがなくてあいさつ程度ですわ。だからボランティアとか来たらようしゃべりますねん、と息子さんやお孫さんやワインの話し。時間切れで辞す。訪問者も最長時間、人間不信が解消されるひとときを得た。(佐藤、森)

・50代女性、一人暮らし。坂のないところに換わりたい。ここの坂はきつい。みんなそう思っている。足が悪くても悪いと見えない。坂でしんどい同士で話して救われる。バスを通すべきだ。これからも心の優しい人に出会いたい。思いやりのある人と出会いたい。仮設(西神第7)ではしゃべるだけでも感謝だった。しゃべれない人はかわいそう。毎日仏壇に向かって話しをする。よいこと、悪いことを話し報告する。ここでは面倒を起したらたいへん。まわりはみんな親切だが、倒れた時に誰かに頼めるといい、などなど、玄関先にしゃがみこんで約1時間のお話し伺い。(山下、東條)

5月11日

・70代女性、一人暮らし。震災で5時間閉じ込められた。屋根に穴をあけて助け出された。5時間の間、何が起ったのか解らんし、自分だけかも知れへんし、家がペチャンコやとも解らんかった。駆けつけてくれた息子の声は聞こえても、自分の声は届かなんでつらかった。でも、その

息子も結婚し孫が生まれる。せつかく助けてもらったから、自分で用心するだけしとかな申し訳ないなあと思った。仮設では思いがけない知り合いがいて、寂しい思いはしないですんだ。

「呼んだら届くところに」友達がいたこと、よかった。寂しくなくて済んだ。何のために生きているんやろ？ って言う人が多いけど、考えてもしゃあない。震災前の場所での寄合ではみんな落ちこんでいるが、しゃあない。ここは見晴らしもよいし、家から花見ができるしね、と前向きの談義を105分。(山下、長船)

・70代女性、一人暮らし。全壊だが怪我はなし。地震に遭うまでの神戸に来たいきさつを伺う。年金と生活保護について批判的なご意見を強く語る。「まあこの辺、女の人多いね。主人は先に亡なつとて、みんな一人よ」とご近所のお話しも伺う。遠くバスに乗っての買物の不便も「買物も運動のうちや！」と自分の身体のコントロールについて伺う。(籠嶋、坂本)

・70代女性、一人暮らし。「ごっついよー。鉄道がズコンと落ちて。そこのちょっと上で、うちはもう気一失ってたわ。」と話しこみ。波瀾に富んだ前半生のお話しを伺う。ここは空気はええし裏は山やい環境はええわ。ただ「この坂を上がりってくるのは本当つらい」と言われる。足が抜けそうにいとって、一度こけてしまい左の腕を折ってしまった、とのこと。年金での生活の実際を様々伺う。朝御飯を近所で集まっていたいでいる、楽しいご近所付き合いのお話しも。(籠嶋、坂本)

・70代女性、震災の時から一人暮らし。「長田で被災してね、ほんまよう助かったな思うて」。ほとんど出たり入ったりであまり家にいないそうですが、元気で人付き合いに積極的なご様子。「阪神負けたー！ってゆうたら、明日勝ちやええやん、来年勝ちやええやん、ゆうて(笑)」と、私達訪問者にも「ありがとうございます！ほんま」と、貴重なお話し。(籠嶋、坂本)

・70代ご夫妻。すぐに仮設でお世話役をしていた時のお話しになる。仮設時代の付き合いは多彩で今も続いている。「ここに来てからは何もせんくなったわ」とも。お孫さんが平日は家にいるので家の中はおもちゃばかり、と楽しそうにお話し。「今、よう死ぬんですよ、孤独死で。風呂場で亡くなったり、テレビのチャンネル機をにぎったままなくなって3日間判らんかったりね」。エレベーターやペットについてのマナーの悪さや「こういうところですからドアをパッと閉めたりすると話すこともできないですからね、孤独になるんでしょうねー。ここで(孤独死を)こんな出すから、他所はどんなかな？って思いますね」とのこと。「苦しんでいる人が多いさかい、まわる分はまわしてくれー。今さら神戸空港造ろう言うのがおかしい。作らす方も、作る方もおかしいわ！」と何回も力を入れて強調されていたのが心に残った。(堀内、西岡、佐藤)

5月25日

・70代女性、一人暮らし。病院通いでいろいろな病気が出てくるので心配。「あまりにしんどくなると閉じこもりがちになるやろ、努めて集会所まで出るようにしてますねん」とのこと。去年同じ仮設にいた人が首をつって自殺してしまった。7世帯いたうち2世帯は亡くなり、1世帯は入院。ここに来てから飛び降り自殺で亡くなった方が2人もおられる。孤独死もある。「ここに来てから何回お葬式をしたかなー」と言われる。子どもが大勢いるけれど遠い子は役に立たない。仮設やここで知り合った友達の方がよく来てくれる。他人の方がええね。上の階で50代の男性だけけど震災で奥さんを亡くされてから酒を飲むようになった。肝臓やすい臓が悪く病院に行っても受け入れてくれないでたら回りにされる。一人の人も多いし、近頃は家族がい

ても亡くなられる人もいるから安心できない、とのこと。前は警察のOBが来とったりしていたけれど最近は来ない。ここは買物が便利でないからねー。駅の方に出ても帰りタクシーやったら1000円以上するから、馬鹿らしいけどバスじゃしんどい。下の病院はよくなったらしいね。まあ、何があっても友達もいるし、何かあったら子ども達より近所の方がねー。宗教も入っているしその点は大丈夫やと思いますよ。早くから結婚しての苦労話と教訓を語られ、「人間は見かけじゃあかんよ、一緒になってみな解らんところあるし」。「この話しまたしようねー」とお誘いを受ける。(猪上、佐藤、岸本)

・推定40代、女性。仮設では犬の鳴き声や騒音が抜けて聞こえるなど、不満があったのでここに当たって入れたのはよいけれど、今度は「ここは仮設とちがって寂しい」という親を看護して入院させて亡くされたつらさを語られる。「この辺はヘンなおっさんおるよー」とご近所の話し。「買物行ったらバス代だけで400円やろ、けっこうでかいしなー」と買物の話し。「まあ人生あんた、楽しい思ていかなしやあないやん」と、きつぷのよい女性で、家事をしながら約40分のお話し伺い。(坂本、原田)

・中央区で被災、全壊取り壊し。ここの建物であまり困ったことはない。近所とはあまり付き合いはない。身障者手帳を持っておられる。下から上がりって一番高い建物だから、行きはともかく、帰りは荷物を持ってこの坂だから。疲れてー。初めはそんなことなかったけど、「年をとってきて今になってねー」と嘆かれる。「せめてバス停まで何かあれば…、下から上がりってくるのに3回も休んで」と坂の苦しさを語る。(長船、華山)

6月8日

・50代後半女性。いつも気にかけていただきありがとうございます。お陰様で元気に暮らしております。この住宅は私にはとても気に入っております。とても喜んでおります。皆様よい方ばかりで。以前は長田の丸山の方に住んでいました。家が全壊になり、西区の方にいました。この住宅には2年前に来ました。今はとても楽しく暮らしております。いろいろありがとうございます。何か困ったことができましたらご相談にうかがいます。その時はよろしく願い致します。(本人記入)

・50代後半女性、3人暮らし。仮設から通してずうーと初めて。これまでボランティアが来たことはなかった。役所か警察か判らん人がきたことある。「何かあったら警察に言いにいきなさいよ」と言ってくれる人でした。部屋の模様替えのお手伝いの後、長時間の話しこみになった。仕事の話、家族の困難の話、減免の家賃を払えなくて滞納していること。生活保護以下の障害年金。「震災が来てからかわった!」。親子心中を考えたこともある。話しを聞いてもらえないとストレスがたまりおかしくなる。生活保護について「申請言うてもなあ。いろいろ言われるんやろ。しんどいわ。」と不安。震災の時に借りた公的な借入金「なかなか払われへん」。「よその国なら気前よう払うてるのに、自分の国の人には何んにもせえへん」。北区の仮設からここへ。「ここへ入ってごつつ不便だが、引越しをくりかえすのはもういや」。坂道がしんどかった。最初はよう迷子になったわ。これから足悪なったらどないしよ。店がぎょうさんあればええんやけど。「何やのん、お宅ら?」から始まった3時間の話しこみ。始めは見えなかった笑顔も出て「こんなして回ってーの?ずっと。」「でも、こんなしてやってると、いい勉強にもなるやろ? 楽しいか?」と聞いてくださり「はい!」とお答えして楽しく談笑。(坂本、堀川、長船)

・60代男性。薬漬けの年金生活。この住宅の便の悪さについてはぜいたく言ない。国の借金がどんどん増えて、国債の利子を払うだけで精一杯。医療費負担3割も止む負えない。空港から0 DAの問題まで矛盾だらけだ。中国を支援したよいが今度はその中国によって国益が脅かされている。震災の前はよかったというけれど、前住んでたところが果たしてよかったか？ 様々お話しを伺う。(矢野、華山、西村)

・60代女性、一人暮らし。長田の文化住宅で被災。前夜片付けといたホームコタツがトンネルになって助かった。友人宅や仮設を経てここへ来たが、生活保護より低い年金でかつかつの生活。近くの農家に手伝いに行く。この住宅に一日はようおらん。(籠嶋、堀内)

・50代女性、一人暮らし。ここは大きなスーパーができるとの話しだったが、コンビニしかなく、バスで買物に出かける。帰りに荷物を持ってあの坂を登るのがつらい。ここには長くはいられないと言われる。市長への手紙をお渡しすると「近所の人と相談して書いて出すようにします」とのこと。(籠嶋、堀内)

・60代男性、一人暮らし。「さ、上がり、上がりって」と促される。「わしな、精神病や、そううつ病って、あんたら知っとうか」。退院間も無いお部屋で、1冊の本ができるほどのお話しを伺う。再訪を約し今日は時間切れ。(籠嶋、堀内)

6月22日

・60代男性。部屋中に種類別に荷物が「まとまって散乱」している中、「大歓迎や」と約1時間のお話し伺い。薬で精神を安定させているとのこと。「わし、実はな、働きたいわけよ。借金もあるし。ばれると生活保護受けられへんから。でも今は建築の仕事はないな」震災後に集めた10センチほどの名刺や本の束やチラシの束、おもちゃやぬいぐるみ、手製のオブジェなどもたくさんありました。様々な荷物の中で話しは途切れ途切れしながら、同じようにただただ続いていました。(坂本、籠嶋)

・30代女性。ご主人と子ども3人家族。東灘のマンションで被災。寝ていた部屋の簾のタンスが倒れてきて顔に当たったが、開き戸だったので戸が開き、中の荷物がドサッと落ちてきただけで怪我はなかった。近くの小学校で1日目を過ごした。被災した時、長女がお腹にいた。2日目は夫の実家が電気もついていると言うのでそちらへ避難した。途中、どこの道をどう通ったか解らない。「火事を見るな、目をつぶっている」と言われて逃げた。怖かった。復興住宅へは3年前に入居した。夫は工事の仕事が忙しかったが今は安定している。女の子2人と男の子。上下の階に同じ年頃の子がいて、昔よりも近所付き合いはある。ただ、近くの公園に去年「怖い人、変な人」がいたと言うので子ども達が外で遊ぶのに心配がある。今は廊下とこの棟の1階当たが子ども達の遊び場になっている。(堀内、原田、矢野)

・50代男性、一人暮らし。「仮設住宅にいた時に、タクシーにはねられて入院し、2ヶ月意識不明で障害者になってしもうて。」「そら生活ものすごい厳しいよー。生活保護とかで8万くらいで暮らし、ガス止められたりするのしょっちゅうよ。こども現実きびしいよ。自殺した人おるもん。食べるの精一杯。飛び降りた奴いますし。3人いますよ。」「ほんまのボランティアをする奴はおらんよ。おじちゃん大丈夫とかは言えるよ。でもこの足ね、痛みはオレにしか判れへんやん。ほんまにボランティアゆうのは、心の痛みを分かちあってやるもんなんよ。今無理してでもまわってて、10年やってたら本当のパワーになるよ。頑張り。」「震災でみんな疲れてる。元気づけたって。おたくらボランティアは立派。役人とかはむちゃくちゃや。」4度の結

婚と離婚。5度の引越しにクタクタ。1冊の本には収まりきらないお話しを100分の上がりこみで聞く。(坂本、長船、籠嶋)

・60代後半男性。血圧が高い。集会所は女性ばかり。囲碁や将棋もできない。1週間誰かとも話さないこともある。上下階のつながりがない。隣の人とベランダで話す。ここへ来て和気藹々にしていこうと思っていたけど、一人一人別々、と40分のお話し伺い。(赤西、西岡、華山)

・60代男性、一人暮らし。神戸空襲で父と姉妹の3人が自宅で被弾し亡くなった。母と2人で逃げ回って、道々苦しんで亡くなったたくさんの死体を見た。様々な職業を経験した。株の売買だけで15年ぐらい生活していたこともあった。古いマンションで被災。近辺には珍しく被害はなかった。旅行中に多分飲酒のせいで昏倒し、3ヶ月入院した。退院してここに来て3年になる。涼しくて景色がよく、まあいいところだと思う。生活は生活保護を受けて何とかやっている。と2時間にわたるお話し。豊富な知識と行動力でマニアックな話題にも詳しい方だったが、部屋には家具らしきものが一切なく、押し入れもカラッポ。かなり心配な方である。(堀内、矢野、原田)

7月13日

・お留守の家の玄関先に、子どもが作った七夕飾りの短冊があった。子どもの字で「お母さんのしごとのおかねがはいりますように」と書かれていた。どんな夢や願いより、かなえてあげたい現実を、雄弁に訴えていた。ぜひお話ししたかったが留守で残念だった。(増田、原田)

・50代女性。わざわざ出てこられてみんなと立ち話。ここは坂がきついから、重い荷物を持って上がってたいへんです。車でまわってくれるって、そんなしてもらったらみんな喜ぶと思うねん。でもタダやったら皆気をつかう思うわ。ガソリン代ぐらい取ったら？何かあれば輪ができるでしょ、そしたらちょっとは希望が見えてくるじゃないですか。私もここに入ってから「うつ」になったんですよ。日々の暮らしのつらさは精神的なことになっていくからね。この男の人たいへんよ。女の方は子ども産んだエネルギーで頑張っているけど。人間関係もそうですし、難しいわね。市はここに押し込んでいて、入ったらしまい。ガイコツのまんまほったらかし、と言う状態で亡くなっているのも独り者。なんぼ外から立派に見えても、住んで見ないと解らない。ボロでも人情がある方がよっぽどよい。寝たきりのおばあちゃんも、ドアは開けばなしで寂しいので声をかけてほしい。」みんなが「どないや」と声をかけてくれるように、自分もドアを開けておきたいけれど、変な人が来るので開けられない。変なセールスとか万引きする人とか。安心できない。気を許せる人がこの中に何人居るか？自分を守る姿勢になる。部屋の中にこもった状態になり、「うつ」になって精神科へ。人間は人と一緒に笑ったりするものだ。地震の時に一緒に助け合ったことを忘れていた。来週から台風があり、買物ができない。冷蔵庫の中が減ってくる不安。家に居るとおかしくなる。「外に出るきっかけが必要だ!」。知らない人でも「いってらっしゃい」と言ってくれる環境が必要。まず、あいさつから。ご馳走よりうれしい。「お父さんお疲れ」の一言で、一日の疲れがとれる。震災の後、地元の中学でボランティアをしていた。そのとき神経のせいで胃がやられた。何が一番生きていく上で必要かの原点がそこにあった。人と人とのふれあいがあれば、何がなくても生きていける。動物が一番解っている。出ていった猫が2度と戻らなかった。人間とちがってストレスのコントロールができないから、野良になってしまう。ここに来て2年ちょっとだが、時間が

経ってくると調子が狂う人が多くなる。どんどん落ちこんでくる。ここを姥捨て山なんて言い方する人も居る。本当にここは、山登りみたいな場所だ。(原田、長船、華山、坂本、矢野)

7月27日

・4年間の仮設住宅暮らしで身体を壊し、今も失業状態。被災地の長田から一番辺鄙な岩岡仮設住宅へいきなり飛ばされた。通勤交通費で2日分の日給が飛ぶ。朝5時に起きて会社いき、残業して帰れば夜中。寝るのは午前様という通勤片道2.5時間の生活は、誰でも身体壊すわ。食べてゆくためにはせなあかん、と4年も仮設から通った。神戸市ももうちょっと考えてもらえればと悔やまれる。と仮設被害の事例を話された。地元に戻りたかったけれどいつも一人もんは最後ですよー。この住宅は坂がかなりハードや。私らでもバテルのに年寄りりはたいへんや。下のローソンで、高くつくけれど買いはるみたいや。今はぼちぼち、何もぜいたくしてないので大丈夫、と語る30代一人暮らし女性と話しこみ。(佐沢、坂本、長船)

・30代男性、一人暮らし。「話すことはない、と言おうと思ってたけど……」に始まり約1時間のお話を伺う。「市住へ申し込んでも外れるばかりでほんま最後でしたわ。」と4年間の長すぎた仮設住宅暮らしを振りかえる。「仕事？ それどころやない。仮設の集会所で近所の人と協力しあって、まず住むところから。仮設の末期にはみんな出ていった建物、壊し始めるから真っ暗で寂しくなって。ボランティアの人はよく来てくれたけど。一人で仮設にいるのもつらく、半分以上崩れかけのアパートに戻ったりしたが怖く、夜寝られず、何時でも逃げられるように戸も開けて寝た。冬寒くても我慢した。仮設はプレハブやから、暑い、寒い、虫が家に入ってくるから悩まされた。わけの解らん動物の呼吸とか聞こえるし。神戸は災害もなくよいところやなあ、と思っていたのに。高速が倒れ、たくさん的人也亡くなって。知ってる人も亡くなったが、鷹取のあたりは地獄絵図のようなものだった。爆弾が落されたような。水に困って、水があんなに大事なもんやとは思わなかった。水、やね。今、忘れかけているけど。食料は配給が多くて困らなかった。避難所にはあまるほどまわってきた。全国の人々の助けはありがたかったですね。壁が壊れ、TVが倒れ、ガスが漏れ始め、やばい、と思った。アパートの1階で、ラジオを一日中流し、ローソクの火、死者の名前を流し続け。暗い雰囲気だった。仮設から出るのに時間がかかりすぎた。4年という時間ね。人間が住むような環境じゃなかったしね。行政がもっとしっかりしてくれたら、が唯一の不満。「いざという時、若い人が後回しになるということは知ってほしい…。でも、一人でもいられないということも解りました。」「昔住んでたまち、知ってる道に、ちがう建物があるのは寂しいですね」(坂本、長船、佐沢)

・70代後半の女性、一人暮らし。名谷は遠いので近くのセンターへ買物に行く。毎日しんどいので3日分ぐらいを纏め買い。今でも、足が痛くなることがあるが、リュックサックを背負ってゆけば大丈夫。「坂はきついが、自分でできることW他人の世話になると、自分でできなくなるのが早まりそうで怖い。どうしてもという時は、買物宅配サービスの利用を考えている。健康状態は、病院に通院しているが腰痛、リハビリ、血圧のみ。仮設にいた時の方が、協力やコミュニケーションが取れていてよかった。救急車が止まっても、止まったことは解ってもどこに止まったのか解いのは不安。(永井、籠嶋、猪上)

・女の子と若いお母さん。長田で被災。仮設に入らず親戚の家を転々として、子どもと一緒にここに家族で入った。買物が不便。車がなかったらどこも行けない。子どもの学校が遠いので、小学校や中学校に入った時がたいへん。それまでここにいるかどうか……。と約20分の立ち話

しを伺う。(永井、籠嶋、猪上)

8月10日

(メモ作成せず)

8月24日

・「ボランティア活動のみなさん暑い中本当にご苦労さんです。私ら夫婦は平成14年3月42年6ヶ月住みなれた住宅を神戸市の住み替え斡旋計画によりまして垂水区の団地より当住宅に引越して参りました。あの震災時は家財道具が倒れたり食器類の破損の被害で済みましたが、あのすごい音は今でもこの耳に残っています。身体の具合の方は私は循環器科通院、妻の方は内科及整形外科通院を致しております。以上の様な次第で毎日を過ごしております。」(本人記入)

・女性。長田区で被災。自宅は全壊した。垂水の団地にいらっしやったそうで、実家は須磨。やはりこの復興住宅は坂がきつく、買物も不便。しかし、「皆さんと仲良くしている」とおっしゃられた。(原田・華山・籠嶋)

・女性。長田区で被災。「変な訪問があるので、表札をはずしていた」とおっしゃられるが、快く迎えてくださった。震災の年に結婚、翌年仮設住宅に入り、ちょうど娘さんを妊娠していて、安定期に入った。この復興住宅は「自然が多いので入りたかった、娘はまだ幼稚園。」ペット禁止だが、震災の傷を癒す効果がある、と特別に認められている場合もある、と話される。「下の子ども去年産んだ。子どもや育児はとても好き」。郵便物を悪戯される事件があったが、家庭でも満たされないから外で悪さをするのでは、と言われ、中自殺してしまう人もいる、・家庭は大切、と言ってらした。(原田・華山・籠嶋)

・70代男性、一人暮らし。ギターを始めて50年ほど、そのうち30年間プロの道を進まれ、仮設住宅の時代は頼まれてよそへ弾きに行ったりも…。ギターの他にはパーカッション(打楽器)やアコーディオンの姿もあり、「何でも精一杯使うところは使わなああかん！」と力を込めて言われました。(井上・佐藤)

・60代男性、一人暮らし。仮設住宅の時は屋根で卵焼きができる程の暑さだったが、和気合い合いとした感じがありがたかった。しかし今は戸を閉じてしまうと孤立、孤独感があって寂しい。趣味はカラオケ、「歌うことも聞くことも好きやからね」と集会所に行くが、知り合いは3人程度で、ヘルパーさんが来る日とたびたび重なるので参加できないこともあって残念そうでした。生まれつき足腰が弱いのであまり活発には出歩かない。「慣れたけど、夜は一人で寂しい時がある。年だし不安もあるから人が来てくれるとうれしい」とケーキとお茶を出していただき、1時間ほどお話を伺いました。退室する時の寂しそうな感じが印象的でした。(井上・佐藤)

・70代後半男性。昼寝をされている時に訪問。夜は自動車の重低音でひどく響き、またにぎやかな話し声もやかましくて寝不足になった。しかし、窓を閉めると暑いので閉めることもできない。買物はコープがあるため北須磨までバイクで行く。子どもの頃から喘息持ちで、アマルガムという薬を服用。水銀を含んでいたのがアトピーになってしまったが、やめたらなくなった。薬は難しい…。喘息持ちは、窓際で寝ると空気が冷やされて発作が起こるから特に冬・夜は寝てはいけないとアドバイスを受けました。(原田・華山・籠嶋)

・夫婦2人暮らし。昨年お母様が87歳で亡くなられた。「母にもっと優しくしてあげればよかつ

た」とおっしゃっていた。ここでの生活には慣れた。買物は主人がいるからまだ助かる。一人暮らしの人はたいへんだろう……。コジマ電機のところにスーパーがたくさんできたがバスだと不便、この復興住宅の近くにつくってほしいとのこと。(原田・華山・籠嶋)

・80代ご夫婦。長田区で被災。初めは電話されたりご近所の方とお話されていたようなので後で訪問。とても快く迎えてくださった。ご夫婦のお宅を含め周辺のお宅の玄関に可愛い造花が飾ってあり、特にこのお宅は飾りが多かったので聞いてみたら、やはりご主人が作った造花や、特に奥さんの作った飾り物を皆に差し上げています、とおっしゃられ、奥さんはとてももの作りが好きなのだそうです。お部屋中毛糸・布・広告など様々に使った手作りのものでいっぱいでしたが、キチンと整理され、温かみのあるお部屋。「暑い中ご苦労様ですー」など優しく言ってくださり、サイダーをいただいた。「どんどん聞きたいことは聞いて。わしらは、新長田におつてね、被災した。この復興住宅はまあ仮設よりはちゃんとしてますから、まあ、そう言うのは住みやすいよ」。「あんたんこの週末ボランティアって、この復興住宅に来てからも2回ほど会ってるよ」と言われ、仮設は学園東に4年。「4年は、長かったわ。当たったけどまだできてないところやったし待たされて。仮設出る時もほんま最後らへんやったよ」。この復興住宅は入居して3年5ヶ月ほどだそうですが、仮設の時にも何度か訪問させていただいていたようで、代表の東條さんとも話したわ、と言われ、昔から参加しているメンバーには懐かしいお話しが。「ちょっとカー」についても、よかったと思う、続けるのはなかなかたいへんだと思うが、それとは別に、ここの坂は本当きついから皆助かった、とご意見をいただいた。奥さんも仮設の時に足を悪くして、その時はお父さんに車椅子で連れて行ってもらっていて、今も先生に家に診に来ていただいているとのこと。「ちょっと買物行くのでも、ここいらじゃ間に合わないでしょ。定期的に、車の行商が、パン・魚・野菜と来よるけど、やっぱり間に合わないから、名谷まで出んと。定期(敬老パス)にはほんまに助かっている。前は、まああるんやったらもらっとこうと思ってた位やけど、今は定期なしでは動かれん。定期なかったら年寄りりみな飢え死にやでほんま(笑)」と、お父さんがとても朗らかに話され、とても気がお若い様子。もともと住んでいた新長田にも毎週行ったりするから、定期は助かるとのこと。「ここいらへん、十数年前は田んぼやってんで。それ知ってるから、この復興住宅に当たって見に来た時は、えろうかわっててびっくりした。」「わし(お父さん)は4歳の時から神戸にいる。空襲の時は中国にいた。28の時徴兵されて、戦場に行ったわ。」「まあ、長い人生ほんまいろいろあるわねえ。」と笑いながら話される。「しかしまあ、ここも不便やけど安さに助かってます。2人の年金合わせたら、食うだけ食っていけるし。昔の人間で田舎者だから、ぜいたくせえへんし。」お話しの途中失礼ですがお年は、と尋ねたら80代でいらっしゃるとのこと、本当びっくり。気のとても若いお2人で、「こんな年やしね、誰かに親切にしてもらったらあげてるのよ。」と、訪問メンバーにそれぞれ奥さんの手作りマスコットをいただいた。「色んな子や、知り合いが可愛い、可愛い、また作ってと言ってくれるので枕やタオルも可愛く作ってあげたりしていて、楽しい。仮設の時は、私は逆に車椅子の生活で外に出なかったから、今はご近所と話せている。」「まあ、わしら暇してるから、来てくれると楽しい。ぜひまた遊びに来てください」と言っていただき、お2人そろって玄関からお見送りいただいたのがなんだか印象的でした。(西岡・坂本・猪上)

9月14日

・70代男性。長田区で被災。ドアが少し開いており、奥さんとお孫さんらしき子どもさんが迎えてくださる。すぐにご主人が見えて、「このチラシ(週ボラの予告チラシ)持ってますよ。いや、待ってたんです。」とのこと。玄関に椅子を並べ、ドアの前で長くお話しさせていただく。まず気になっていることをすぐに話されて、すぐに本題へ。「僕が一番気にしてるのは、ここ全部閉ざしてしまうでしょ。ここ入って、一番気にかけるのは、この閉鎖された空気なんです。やっぱりね、毎日暮らすんやし、何て言うのか・・・、心豊かに生きたいですよ。それを営むために、何ができるんかって言うのがね。」「僕は行政に迷惑かけたないし・・・。仮設にも入ってません。長田高校の裏っかわに自宅あって、そこで被災したけど、自宅に住み続けましたよ。自分でできるところまではやらなあかんし、どーしても自分の力でやれへんことは行政に頼まなきゃあないけど。その辺は、(ここの)皆さんと考え方、ちがうかもしれないけど・・・。」「ここはね・・・、ここ入って、隣近所でも閉ざしてしまうわね。うちは、家内元気やし、まだそんな心配はしてへんけど、この階だけでも5人は高齢者で、お一人ですね。」孤独死の話もいくつも聞く、あまりおっしゃりたくなさそうでしたが、自殺なども・・・など。やはり、集会所でもいろいろ、この復興住宅の住民同士の交流の足かけになればと催しはしているのですが、「お世話役さんらも大層頑張ってはって、ボランティアも来る。けど、そこまでして頑張って、キリキリ頑張り尽くすことなんか?とも、聞きたいよ。この棟だけでも180軒あります。いっぺんにそんなん、集会所一つでまとまらない。集会所も参加したけど、あっちゃこつちやからバラバラに意見が出て、まったくまとまん。」ゴミも、生ゴミを適当に捨てるなど、迷惑なことも起きている。ご主人がこの棟だけでもと見張りなどし、少しはましになったが、自分ひとりの力では限界がある、とおっしゃられる。「僕はね、前に出てやれへんから・・・。いろいろ言うたりはしたんです。会長さんとかにね。この階とかも、結構空室とかあって。他の階にもあるみたいですよ。せやから、そこ借りて、この階の人らだけで、集まってボヘって話すだけでいいですよ。構えた催しもアレやし、ましてあんな下の集会所なんて行く気にならんやろ。そういうことをしたい!と、言ってみたことあるんです。けど、市の許可も下りんし、あかんですって言われてね・・・。180軒、いっぺんにまとめるんは、無理ですよ!」「僕が思うんは、この階、この階、あの階・・・と、一つの階ごとに、空室とか使ってね、1階ずつまとまりを作っていけば、ええんやないかと。そうしたら、それをまとめてって、この棟でまとまるってことできるんじゃないか?と思うんです。」「結構知り合って話ししてた近所のおばさんが、数日前までふつーに話してたのに、葬式やって、どしたん?って聞いたら、いや弟亡くなって・・・て言わはるから・・・。びっくりした。普通、なんかあったとか、調子いいとか悪いとか、言って歩きはせんわなあ(苦笑)。自然に伝わるでしょ。それをね、なんつとかして、ほんまに作っていかなと!」「でね、なんか皆さんいろいろ回ってはるみたいやし、ご意見あったら聞きたい!と思ってたんですよ。前はね、ボランティアは全然解らなくて、一度大学のボランティアの講義を見たことがあるんやけど、そこで、ボランティアは、ただただ相手のために尽くしたりすることだとお聞きして、すごいもんやなあ・・・と。正直ボランティアの精神は僕はよう判らんのですよ。なんやら申し訳ないし・・・。けどね、あんたらんところは週末だけでしょ?僕は、ボランティアってそんなもんやと思うんです。やからあんたさんらのと興味持って、待ったんです。色んな仮設やら住宅とか見てきはったんやったら、なんかええ意見ないかと。ぜひお話したくて。」震災直後、週ボラ発足時からほぼずっと来ている

ベテランさんや、代表との話し合いも勧めし、奥さんにいただいたアイスコーヒーをいただきながら、お話しをした。訪問先からのアプローチは珍しくびっくりした。この復興住宅への熱意や、年代に見えないお若さ、気力、自立した精神を強く持っていらして、連絡先もお教えいただき、ぜひもう一度来てください、連絡お願いしますとのこと。(坂本、増田、中山)

・80代女性、一人暮らし。「ま、時間はあたし一人やし、別に構わないけど。上がりって貰いましょか？」と、上がりこみさせていただいた。始めのうちは、日常生活についてお伺いした。

「ま、買物たいへんですけど、下の人と気分のええ時だけ行こか一言うてます。医者は内科とか、まあいろいろね。桃山台とか、つつじヶ丘のちこで、買物して帰ったりしてます。この復興住宅に来てあくる年、ギックリ腰してから往生してますねん。今も腰はうまいこといきませんわ。」お話しつつ、お茶を入れてくださり、「ああ、本当おかまいなく！」と言うと、「おかまいせ一言われてもできません(笑)」と笑ってくださる。長田の長屋のある、ご本人曰く、「少し柄の悪いとこ」で被災、何も持たずに出た。「屋根はストンと言って(壊れて)、中身は大丈夫だったけど、あきませんわ。ま、もう戻りたくないし。ここ入るまでは、西神第7仮設に足かけ5年おった。皆でいっぺんにここ入ってね。やからこの辺はよう顔なじみばかりやけど。あたし、人とあんまり関わらないですから、なじみでも名前知らんのですよ。」「この復興住宅もねえ、いっぺん皆で見学来た時は、うわーっ、入りたくないねえ、て皆で言うてたけど、こしかないし。」お一人暮らしされているんですか？とお聞きすると、「あたしは、仮設の時からもずっと一人。まあ、いろいろあったからね・・・。」お部屋には仏壇もあり、ご主人やお母様もすでに御亡くなりになっているとのこと。「家事とかは、やってますけど、デイサービスから一人、週にいっぺん来てもらってます。ほんまはもっとやってほしいけど、高いし・・・。ちょっと掃除してもらってるだけですけど。要介護とかあんなん、私よう知りませんねん。下の方が皆してくれるから(笑)今になって、ようやく杖使うようになって。転んだわけやなく、なんかやっぱり足痛くなってきてね。足と一緒に腰まで痛くなってきて、背も曲がってみるみる小さくなって。はよお3りけえへんかな思うわ。誰かも訪ねてけえへんし、親戚も来ないし。私はもらわれてきた子やから、兄弟とも遊んだことなかったし。」ここから、人生の経験、ご苦勞をお聞きする。「19の時に母連れて一緒に働いて。もう戦前の話しですわね。働くのは長いこと、26年間神戸弁護士会に勤めて。62で辞めて、皆ひきとめてくれたし、もっと働くつもりやったけど、まあね。結婚もねえ、30代で結婚して、結婚して17年目に主人と死別したから。母は主人より前に亡くなって。主人のお母さん、姑養っていかなあかんと思って、必死でやりました。長かったけど・・・。一番苦勞したけど、その時が一番楽しかったな。今、一人になってやっと解ったわ。自分の苦勞というものが。私という人間がね。何て言うのか、誰かかおってくれたらええなと思うこともありますけど、ま、誰かかおっても気いもむし、私こんなやからすぐ喧嘩するしね(苦笑)。集まりとかも参加しませんわ。下の方がおる時だけね。下の人しっかりしてます、私より。90ですよ。すごいですよ、私より年上で、負けますわ。負けんように、思ても、もうダメですわ(笑)。なんや、仮設の時から一緒やから。さっき話したけど、皆でいっぺんにここ来たからね。離れてしもたらいややな思てたら、たまつたま真下と真上でね。えらい、縁あるんやなあ言うて。書類とかもみなしてくれまますねん。もう計算とかあんなややこしいのようできへんのに、ようやってくれて、あなた、自分でやりや一言いながらね。はよどないかなりたい、お3りけえへんかな、言うたら怒られますねん(笑)」と、とても親しくお話しされている様子。「あたしは話し下手でね。話しとつたら、長いことの苦勞が、愚痴

になって出るし。人に嫌われたらあかん思て、愚痴言われへんから話されへん。」と伺い、気になった。お話しすごくお上手ですよ、と言うと、少しだけ喜んでくださった。「まあ、どなたでも苦労してはりますわね、戦後は。それもあるしね。」家具などは、最近になってやっとそろった、始めのうちは本当殺風景やった、とおっしゃり、お部屋のあちこちに手芸品が。「一番初めに行ったデイサービスとここでやってた手芸講座に参加して、それからですわ。今もそこに週何回か行ってます。こんなんが、一つの気分転換やね。」「まあ、もうほんま下の人にお世話になって、あんた、逝かんといてよー、長生きしてよー、って、年寄りりつかまえて言ってます(笑)。」口調はしっかりされていて、サバサバとお話しされていますが、お話しするうちにたくさんのご苦労をお伺いし、もっと時間をとってお話ししたいところでした。(坂本、増田、中山)

・80代ご夫婦。奥さんに玄関で立ってお伺い。あまりつつこんだお話しはないし、したくないといった様子でしたので、日常生活について伺う。「今はまだねえ、歩けるけど買物がねえ、来年にもなったら身体もアレやろうし…。被災?東灘でね。」と、先のことが心配のご様子。ちょっとカーについて、知ってはります?と伺うと、「ああ、あれね、私らとか、後、他にも結構いはると思うけど、時間帯が噛み合わんのよ。買物午前中に済ましてみたいから、午前の終わりにあるといいな。すごくいいと思うし、ぜひ、時間帯を見てほしい。」とご意見が。うれしく検討する。「とにかく、今はエレベーターとか使(つこ)てなんとか降りたりしていつてるけど、来年とか心配で。他の人らも、足とかあかん人辛いやろし…。」「今のところ、生協も来てくれてるしね、まだええわ。出る時は、買物は名谷。しかし、神戸来てから、買物にバス乗るなんて初めてです(笑)。バスの乗り降りもたいへん。身い重うてねえ。でも、買物は毎日、運動で行ってます。家におっても…、ねえ…。近所付き合い…はないけど、バス停で皆話してますよ。家族みたいなんや、声かけあつて、調子どやとか、おはよーとかねえ。どこの棟とかもない。名前は知らないでも、顔見たら解る、って言うやつでね。病院は、月に2回行ってます。血压高くて、ちょっと心臓悪い。」この復興住宅に「来るまでは、娘のところにおいて、仮設は入らなかったです。ここもできてすぐ入って…。近所に娘もいるし、ま、もうなんにもチラシ(予告チラシと一緒にお入れした支援シート)に書くことないわあ(笑)」と、最近のご様子を主に伺った。特に困りごともないので、買物だけで、ちょっとカーについてご意見をもらた。(坂本、増田、中山)

・中年女性。お休みのところだったようです。「ああ、ああ。なんか(予告チラシ)入ったね。」と、少しだけお話ししてくださった。「まだここ入って、間がないからね。1年にもならへんけど。」生活のご不便、買物などについて、やはりお伺いする。「まー、この辺ないもんね。遠いし…。私まだ行ったことないねん。病院通い位ね。買物は、主人が仕事帰り名谷で行ってくれてます。どこが悪いわけやないけど、病院は月1回。そこの国立にね。」「ま、こんなもんかなあ…。」お休みのところ、失礼しました、と立ち去りました。申し訳なかったですが、少しでもお話しをしてくださり、うれしかった。(坂本、増田、中山)

・70代男性。スーパーファミコンを置いておられて、遊んだりしている。3つカセットを差し出して、「この3つあれば、一日つぶせる」と言われ、1時間ほど、ぷよぷよなどのゲームと一緒にさせていただく。「久々に楽しかったですわ」と、奥さんとも一緒にゲーム。「家内の方が強い」などおっしゃられ、こちらまで楽しませていただいたが、とても和やかにお話しする。「気を使ってしまうが、今日は久々に楽しかったですわ」と言われる。パソコンもあったが、

「横文字ばかりで目的が解りませんわ」とのこと。楽しい時間を過ごしたところで、本格的にお話しされ始め、こちらもお伺いした。「地獄を見てきてますから・・・」。昭和9年の阪神大水害、昭和14年の灘中の火事。用務員が放火した。この時も近くにて、大きな火事を経験。昭和20年の空襲。この時も、神戸製鋼で働いていた。この頃が一番しんどかった、とおっしゃられる。15～16歳。学生で働いていた。その後は、大工をしながら過ごす。木造の大工。「料理もしますよ。最初のうちは恥ずかしかったが、今は味噌汁、肉じゃがはできます。」など、話される。震災は、東灘で被災した。この復興住宅までがしんどかった。1999年入居、東灘に戻りたくても当たらなかったため、仕方なくここに来た。仮設は六甲アイランド第3住宅に4年以上いたが、3年が限度。4年目はしんどかった。皆当たって退去、空家になって・・・精神的な辛さ、不安など。族も来るし、辛かった。最後まで居たので。夜が怖く、警察も巡回されていた。「(仮設)最後の1年半はこたえた。胃がんで入院し、退院先が、この復興住宅でした。今は結構に暮らしています。」と言われる。また、魚崎の震災8時間後の火災は、ライターが原因で、ガスの蔓延している被災地で、シュボツ、と、つけたら最後や、ライターつけた人はそら、避難所でも顔向けできないわ、と言われる。これは、一つの教訓やった、と言われた。長く上がりこみさせていただき、本当たくさん経験を伺えた。(長船、矢野)

・70代、女性。戸口にて少し伺う。「こうして居れるところに入れていただいて、色んな方が訪ねてきてくださるのでありがとうございます。元気なだけがとりえで。足腰の不自由は年ですから仕方ないが、諦めずに頑張ってます。」ちょっとカーについてお伺いすると、「乗せてもらった時はありがたいですが、一応エレベーターも充実していて不自由までは感じませんでした。私にとっては、ものすごく便利でいいところです。」以前(震災前)は、中央区(元町3丁目)なので駅も近く、平坦な道で便利だったが、緑がなかったので、年いってからは、こういう静かなところもいいです、とのこと。ま、車の音がうるさいのは少し困るが・・・、とおっしゃられる。震災の時は自宅が全壊し、垂水区城が丘のアパートを経てまる5年でやっとここが当たった。仮設には行っていない。「ありがたいところに住ませてもらってます」とのこと。(長船、矢野)

・70代男性、奥さんと2人暮らし。兵庫中学のそば、上沢にて被災。4階建集合住宅の1F部分つぶれて全壊。2Fの踊り場より脱出。現在、跡地はタクシーの車庫になっているとのこと。被災後は春日台の仮設へ。今より、買物など便利がよかった。現在の復興住宅には、H11の5月に入居され、建物と空気がよくて、そこはうれしいとおっしゃられた。やはり、買物の便利は悪く、ちょっとカーは利用しました、とのこと。ぜひまた続けてください、と言われる。騒音については苦言。うるさい車が夜間多く、眠れないこともあり、たいへん迷惑している、と他の住宅でもお伺いしたお話しが・・・。健康については、おかげさまでまったく問題ないとのこと。(籠嶋、井上、阪野)

・80代。兵庫区湊川付近にて被災、震災で家は全壊し、下敷きになった、とお聞きする。この復興住宅には、完成待ちで入居。この階は、親切な人が多く、不便を感じない。隣の人が仕事から帰ってくると、夕方必ず訪問してくれる。近隣の人が買物もついでだと言っていつて来てくれるなどもあり、近隣の人がよく来てくれるので、寂しくもない。などなど、驚くほど快適だと言われ、びっくりしながら、うれしい近隣関係のようでよかった、と思えた。(籠嶋、井上、阪野)

・80代。長田区大谷町にて被災後、桃山台の次男のマンションへ。健康面、金銭面ともまった

く困っていない。本を読んだり書いたり、精神的にも快適とのこと。買物などは？とお伺いすると、「まったく困っていませんよ」、「ほら、ご覧の通り」と、元気にハキハキ歩かれました。とても80代とは思えない程の歩調にびっくり。息子さんがお2人いらっしやって、近くにいるので安心、一緒に暮らさないかと誘われており、自分は恵まれているとのお話し。(籠嶋、井上、阪野)

・70代男性。奥様と2人暮らし。長時間お伺いする。東灘で被災され、自宅は全壊。被災後、深江の仮設住宅へ。震災時、強い縦ゆれを感じて外を見ると、隣のガレージが倒壊、自宅もその数分後に倒壊した、とお話しされ、その時の写真を見せていただいた。震災直後に起こった火災は、プロパンガスを原因と見ており、その後、ガスに対して恐怖心がついた、とおっしゃられる。この復興住宅へは平成11年の5月に仮設より入居したが、便利が悪く、車を購入。名谷まで週3回位まで出ている、とのこと。一つ、困っていることがあり、夜間改造車の集団と思われる騒音がうるさく、眠れないことがあるとの話。この集合住宅のこの棟の共通的な事項だと思われる。伊丹と名古屋に息子さんとお孫さんがいらっしやるとのこと。集合住宅にありがちな問題として、犬を飼っている人がいて、フンの始末が悪い、なども。健康面においては、脳の毛細血管の血がにじみ出て、救急車で運ばれたことがあるが、それ以外では健康だ、とおっしゃられる。昭和初期の大不況、昭和13年の神戸大水害、満州事変に続く大東亜戦争、昭和20年の神戸大空襲、学徒動員、そして阪神淡路大震災と、とにかくたいへんな時代を生きてきた、と人生経験を伺った。(籠嶋、井上、阪野)

・90代。長田で被災された。2月頃心臓のペースメーカーを手術して入れ、手術結果は良好とのこと。妹さんがお一人いらっしやるとか・・・夏ばてで入院したが、先生に「何ともないよ、元気出しなよ」と言われました、とのこと。「一人暮らしなので震災後は仮設だったけれど、復興住宅の方がいいだろうと言われてここに越してきました、よかったですと思います」とのこと。絵がお好きとのことで、以前書いた絵を見せていただいた。若い頃はそごうで手芸を教えていた、とのこと。話題が多く、長時間お話しできて、いろいろ教えてもらうことが多く、お年に見えないほどしっかりされた方。逆にこちらが元気づけられる。趣味を多く持っていらっしやることが元気の元かと思った。(小波本、北山、鍋田)

・長田区で被災。声帯の手術をされたそうで声が出にくい。土地があるので長田に近い将来帰りたい、とおっしゃられる。(小波本、北山、鍋田)

・90代。「特にないですけど・・・」と言いつつ、お話しを伺えた。中央区で被災。近所の友達という関係にある。バス停までの距離が長く、年寄りには買物など疲れる。坂がきついので何とかならないかと思うことがある、とおっしゃられる。手芸が好き、とお伺いする。1時間近くお話しが弾み、ボランティアに話しを聞いてもらえてよかった、と言ってくださった。足(ひざ)が痛い以外、身体は元気。話し方もしっかりされていらっしやいました。(小波本、北山、鍋田)

・80代、70代ご夫婦。「17時と聞いていたんで、待ってたんや」と。この日は多くお話しを伺えて、お待たせしてしまった。申し訳なかった。六甲で被災され、西神第7仮設で、180世帯の役員をしていた。書道と卓球指導員をしている。夫婦とも元気で、週ボラ来てくれてうれしい、もっと早く来てほしかった、と言われました。話し振りもはっきりしていて、とてもお元気なご様子。住宅内の世話をたくさんしていらっしやって、それが元気の元のような様子でした。(小波本、北山、鍋田)

・70代、80代の姉妹。妹さんにお話しを伺う。板宿にて被災。全焼して、そこは倉庫になっている。かしのだいの仮設へ。ちょっとカーは2回利用した。公園もあり、空気、風通しがいい。名谷まで出ていくのは、たいへんとのこと。(籠嶋、井上、阪野)

・「早いもので入居してより2年5ヶ月が過ぎました。姉が足を悪くして車椅子でたいへんでした。今は杖をつけて少し歩ける様になり皆様に親切にしてもらってやっと今心より安心していきます。春のウグイスの声で日を過ごし空気もよいところです。この前の坂の車2回お世話に成りました。ありがとう御座いました。」(本人記入)

9月28日

・60代男性、およびその方のお友達。大学卒業後、服の縫製の仕事をしていた。今でも現役で仕事は結構まわってくる。妻から年金生活を勧められているが、辞めるつもりはないとのこと。震災のことよりも、専ら人生論を語っていただきました。訪れたお友達とで見事なボケとツッコミの会話をを行い、その中にお互いの思いやりを感じました。お友達は戦時中に負傷した跡が残り身体不自由。最近ではアルコール中毒気味だと語っておられた。(籠嶋、木下、佐藤)

・80代後半女性。長田区で被災。住居は全壊した。仮設住宅は本多町に入居していた。仮設住宅入居者優先で今の住宅に当たった。買物は、名谷、新長田、湊川で買っている。近所の店はものが高いためあまり利用しない。夫は震災前に逝去。現在は遺族年金と自分の年金で生活している。4人の子どもは別居しているものの、週3回程度訪問して食事などをしていってくれるので、あまり寂しくはない。ただ、近所付き合いは会った時のあいさつ程度。現在住んでいるところに関しては、表だった不満は特にない。年齢のわりには非常に健康そうなお話しを伺う。(籠嶋、木下、佐藤)

・60代～70代ご夫婦、長田区で被災。奥さんは奥から声がしていたので、そちらにおった様子。ひよどり台の仮設住宅に入居していた。胃と腰が悪く、奥さんは病気持。喫煙をなかなか止められない。仮設住宅に住んでいた当時の友人との食事会が週1回あって参加しているが、現住所での食事会は行ったことがない。お年寄りはこの様なところに放り込まれたら寂しいと思う。坂道に動く歩道を造る、と役所が言っていた。足の悪い人にはたいへんなところだと思う。ちょっとカー、100円は高い。役所はつまらないところに金をかけずに、ちょっとカーみたいなものに金を出せばよいと思う。署名を集めて助成金を出してもらえばよいのではないか。近くにスーパーマーケットができたらいいのに。野菜を売りに来るけど値段が高い。ここは不便。生まれてこの方ずっと新長田で暮らしていた。駅の構内放送が聞こえるくらいのところだった。火災には遭わなかった。ちょっとカーに力を注いでほしい。(猪上、佐藤、西岡)

・高齢の女性。いきなりドアが開き、「ハイハイ、何ですか」と。「週末ボランティアと申します。このあたりをまわらせてもらっていて、お話しをお伺いしているんですが。先週、チラシを入れさせていただいたものです。」「あー何か入ってましたねえ。まあ、足が悪いけど、何でも一人でやるようにしてますわ。そうしないとダメになるし。だから、何かしてもらったりとかは結構ですよ。」「お話しをお伺いしてまわっているボランティアではないんですよ」「あー、まあ、お話しと言っても、もう話すのもアレやしねえ、ここ(頭を指でトントンと指す仕草で)悪いから、もうしんどうて(笑)」と、明朗に笑っておられた。とても明るい方。「まあ、寂しいなあ、と思うこともありますけどね。まあご近所言うてもこのあたりは男の人ばかりやし、お年寄りは、だって、同じような年代の人でも結構年が離れてるしねえ。ま、

ここの自治会長さんも様子を見に来てくれたりしてますし、子どももちよくちよくのぞきに来てくれたりしてますから今のところ、大丈夫です。」「あ、そうですか。また、ぜひお話しをお聞かせください」「はい、またお世話になるかも知れませんが。ありがとう」と、高齢にもかかわらずはつきりした口調の明るい感じのお母さんでした。(北山、濱岸、坂本)

・70代後半女性、一人暮らし。長田区にて被災。住んでいた長屋は全壊。駒ヶ林中学校で避難所生活を送っていた。避難所生活の途中で病院に入院をしていたご主人が肝硬変で亡くなられた。近隣の協力もあったため、近くの集会所で葬儀を出すことができたので助かった。最初は遺骨が帰っていくところもなく、困った。水も満足にない中の葬式だった。避難所には1ヶ月半程いて、知人の紹介にて地元の貸家へ入居。伊川谷の仮設住宅で3年半ほど生活をした後、神戸市の幹旋で西明石のマンションを経て平成11年5月からここに入居した。入居当時、被災した場所を訪ねたが区画整理の工事ばかりが行われており、当時の面影はまったくなく寂しかった。現在、一人暮らしだが2人のお嬢さんが市内と明石に住んでいる。近いようで遠いが、月にそれぞれ2回ずつ程度来てくれる。買物もその時にしてくれるので助かっているがここは魚介類、肉類についてちょっと購入したいと思った時に購入できる場所がなく、不便は感じている。野菜については4棟の下に毎日来てくれる巡回の八百屋さん、ポストの前に火曜と木曜来てくれる巡回の八百屋さんで足りる。現在マクドナルドがある場所に本当はスーパーマーケットができるとよかったなあとも今でも残念に思っているそうです。交友関係も広く、昔生計を立てていた洋裁、下の集会所でのカラオケ、と趣味も広く、毎朝6時半から行われている近くの公園でのラジオ体操に参加したり非常に充実した生活をしているご様子です。ちょっとカーの時は、暑かったために出歩かず、乗れなくてとても残念。友人によると、ちょっとカーは『神戸新聞』にも載り、とてもありがたいと思う。有料だったとしても利用したい。周りも同様。出歩ける時間は、10時から13時。友人と一緒にの時は食事を外で取ってから帰るので14時頃。ちょっとカーへの依頼を強く希望されていました。(井上、古澤、華山)

・70代後半女性、一人暮らし。長田区で被災。元の自宅は全壊。その後、西区の息子さんのマンションに3ヶ月間住み、その後垂水区の民間賃貸住宅(家賃4万円/月)に4年間住み、平成11年5月からここに入居し、現在に至る。収入は、現在では国民年金の約63万と息子さんからの仕送りのみ。貯金を取り崩している。そこから、介護保険料28225円と家賃9500円を出費している。上の子は西区に息子夫婦と孫2人、娘が滋賀県に夫婦と孫2人がいる。今まではほぼ健康だったが今年4月頃に高血圧症になり現在通院中。今住んでいるところには友人もたくさんいて、グランドゴルフに週1~2回、ストレッチ体操に月4回通っている。集会所である食事は必ず毎回参加している。(井上 古澤 華山)

・70代男性。入居は平成11年9月頃。「仮設住宅は西神の第5仮設にいた。週末ボランティアは当時も来たことがあった。3年前にここに入居。妹と一緒に住んでいる。私も妻を亡くしたし、妹も夫を昨年亡くした。」ここの住宅も今日、転入された若い方がいますね、と話したら、「ここも最初は老人ばかりで、仮設住宅から転居してきた人が入ってきたけど、老人は順番に亡くなっていく。10年か20年も経てば仮設住宅からの年寄りも少なくなって、普通の住宅へかわっていくんじゃないか。」「ここの坂は年寄りにはキツイわ。泣かされている。」とちょっとカーへの期待を語られました。(猪上、佐藤麻美子、西岡)

・72歳男性、一人暮らし。有馬の仮設住宅に2年ほど住んでいた。東須磨にあった自宅は震災の時に全壊。震災後はまず大阪の弟の家に少し住んでいたが、大阪に住んでいると申し込みがで

きないので仮設住宅に入居した。妻は3~4年前に一度有馬でガンの手術を受け、一度はよくなったものの、転移してまた再発、9月の始めに病院から帰ってきたが手遅れだったので亡くなってしまった。「有馬の仮設には最後までおって、まだか~って言われて、まだや一言うてな」。娘が名谷にいて、たまに食事を持ってきてくれる。息子は頼りにならんし（出張で遠隔地に住んでいるため）「医師にはかかってないが、コロッと死にたいわ」と言われる。娘さんとかもおるし、元気にまだ生きないとね、と励ましの言葉もちらほらとかけた。ここは「湿気が多くてなかなか抜けんね。日当たりはよいけど、朝日が当たらない。西日ばかり。建て方がほんま逆」と言われました。健康のため、このあたりをブラブラ散歩。有馬は歩くところがいっぱいあったんやけど。買物には車を使っているから困ってはいない。（木下、籠嶋、佐藤）

10月12日

（メモ作成せず）

10月26日

・女性、ご主人とお2人暮らし。長田区で被災、全壊。「耳が悪い」ということで、ゆっくりとお話を伺う。「主人ともども、おじいさんおばあさんやから…フフフ…」と、ゆっくり笑われる。この日はご主人と一緒にTVを見られていた（TVの音は大きく、訪問前から様子が聞こえていた）。「腰を痛めて、1年になります。病院を出たり入ったり、入ると2~3ヶ月いる。」とのことで、「病院通いだけがもう、たいへん」。仮設は西神第7仮設でこの復興住宅へは建つてすぐの入居とのこと。近所付き合いなどは、「まあまあ…」と苦笑された。「腰と首が悪くてねえ、それがね…」と言われていた。ご高齢の様子だったのですが、にこやかに話してくださった。（長船、坂本）

・ご夫婦、ご主人にお話を伺う。「何かはいつとたなあ！何きくん？」「まあ、何とも言ひしなあ。ボランティアとゆうても、実際に力つくようなもんちゃうしな。悪いけど。助成金とか言うのところがうしね。」地道に皆さんの声を聞くしかできないので…とお話し。ちょっとカーについてもご説明したが「まっ、市や何かやってくればね。考えも変わるけど、あんたらでどれだけ力があるかというやね、市や県を動かすような。何かせんと話だけ伺うって言われても、みんなうーん…てなと思うよ。まあ、強力なバックアップとか持って、何かせんとね。むずかしいんちゃうかな。」と、話される。何度か同じ内容をくりかえされ、そういう点で不満がある、と言われた。ご夫婦で買物に出られるとのことで、お見送りした。「ま、ぼちぼち」と言われてた。（長船、坂本）

・中年男性。訪問中、お声をかけてくださり、一度留守だったので入れた留守シートを見て、様子を見に来てくださった。「まあ、何してんのかなーと思って」ということで、復興住宅など、被災者中心にお話を伺い、その声をもとに何かをするということより、まず、お話を伺うことを大切に、このあたりを第2第4土曜日にまわっていることをご説明。次の機会に、と言われ、今日は買物で出とった。入った時から、何かなーと。おもしろそうやなあ。」と、朗らかに言うてくださった。（坂本、長船）

・70歳女性、被災時から一人暮らし。中央区で被災。宮本小学校体育館でしばらく過ごした後、西神第5仮設に。戸数は200くらいで、仮設は楽しかった。「4年と1ヶ月の生活。一番楽しい生活だった。仮設の自然の中での生活がこれまで一番楽しい生活だった」と、語ってくださった。

メジロ、ウグイス、アマガエルもいて何度も「楽しい」と言われていた。買物には名谷のダイエーか大丸まで行き、身体の方はどこも悪くないけど、胃が弱いそうですが、長年の野球好きで、グリーンスタジアムにはよく行かれるそう。以前は近鉄だったが、今は中日ファン。あまりに詳しく驚くばかり。上がりこみでお茶もご馳走になった。(中山、華山、濱岸)

・女性、一人暮らし。インターホンを押してしばらくするとドアが開き、猫も一緒に出てきた。「猫が逃げるから早く中入って閉めて」と言われ、玄関口までお邪魔させていただきました。県庁の向こうの山手で被災なさり、仮設は東川崎町。政府の方が勝手に決めてここに入居なさることになったそうで、息子さんとも地震前から離れて暮らしていらっしやるよう。腰の方が悪いらしく、買物はヘルパーさんにしてもらい病院にも通えないみたい。「お医者様が週にいつ来てくださいるから～」と、ここの生活にも慣れ、「何もかも政府に寄りかかっとならきのだくや。自分でできることはせな…」と言われ、前向きな感じの方でした。お身体の方が不調だったようで、そのあたりで失礼させていただきました。(井上、籠島、佐藤)

11月9日

・女性、一人暮らし。震災後7年も8年も経ってるからなるようにしかならないと言。テレビを見ている時に地震が来てすごかった。ドアから出られず、真っ暗で懐中電灯が見つからなくて、近所の人に助けてもらった。しばらく余震も続き、家の中に入れなかったとのこと。西神の仮設に4年間、一番最後まで残っていた。仮設はいやだった。買物は、名谷か垂水まで出る。コンビニは若い人向けで行けない。(北山、華山、矢野、大西)

・ご夫婦2人暮らし。奥さんは入院なさっているため、旦那さんに伺う。会社は震災にあって、定年だったので辞めて、今は年金生活。小学校に2、3日避難していたが、途中風邪で熱が出た。あれ以上いたら病気になると思った。仮設が当たらなかった。娘が姫路に住んでいるからしばらく住んでいた。家は古かったため全壊。出てきたらペツチャンコ。荷物はほとんど出さなかった。隣の町が火事だった。かろうじて助かった。支援の方々に感謝。(北山、華山、矢野、大西)

・50代男性、一人暮らし。東灘区で被災。「家つぶれて全員うまとった」とのこと。半日くらい家の下敷きになってしまった。「娘のボーイフレンドや近所の人に助けてもらた」「ここに来て3年、家内が亡くなって…」と、表情が暗くなってしまいました。娘さんが名古屋にいて、一人暮らし。震災前はトラックの修理屋をやっていた。今はパソコン関係のパーツを運ぶ仕事をしている。九州から東京まで、くじ引きでどこに行くのかが決まる。遠いところの方が儲かる。24時間夜中も関係ないので生活が不規則になってしまう、など、いろいろ話している時、特に仕事の話しでは笑顔を見せてくださいました。仮設にいる時はよく話しとったけど、ここでは話すのは隣くらいで話さない。被災の話の時は途切れたりすることがあり、うつむくこともありました。(西岡、玄田、豊田)

・70代ご夫婦、奥さんにお伺い。須磨区で被災。食器棚や家具が倒れたくらい。近所には長田の人が多く、その方の方がたいへんだろう。あまり近所付き合いはなく、月1の掃除などであったら話す程度。高齢者が多い。買物は垂水や妙法寺へ地下鉄で。「ちよっとカー」は知っているけど、元気なので、まだ利用するほどでもない。(北山、華山、矢野、大西)

・70代女性、一人暮らし。インターホンを押し、しばらくするとドアが開き「週末ボランティアですけど…」「はい?」「震災後どうしておられるかな?と言うのを聞いてまわってるんです

けどね」「別に大したことないんだけど…あはは～」と微笑まれ、「被災地は?」「灘区、仮設に入らんでねえ」「え?仮設に入らなかったんですか?」と、驚きまじりに聞くと「うん」と、さらっと返され、「もう60年前の古い家でね、取り壊して、今は空き地になってます」そして、腰をさすりながら「身体が年だし、しんどいですが、時々ね」と、少々苦笑い。「近所の人はなかなかいい人で、食堂なんかで食事する時もありますし、楽しみにしてます」とのこと。「不便なこととか、ありますか?」と、聞くと「いや、特にないです。お風呂もいいですしね」と、後ろのお風呂場を見るような仕草。「ただ、子どもが多くボールをほったりとかね、下の階の人が困ってはってたから、注意するとクソババアとか言われてね」「ああ、そんな言われたら、次に注意する気になれませんね」「あはは(苦笑)、そうですね。この頃の若いお母さんは注意しないからね。まあ、この階は子どもさんがいないし、いいです」と、横を向いてはりました。子どもさんは、息子さんが2人、娘さんが一人、娘さんは明石にいて何かあったら来てくれる。少しの沈黙の後、「不自由はないです。名谷行ったり、西神行ったり、私たち年寄りはいいですよ。地下鉄使ったりね。今は、私より若い人でも病院行ったりするしねえ」と前向きな感じのする方。「わざわざすみませんね。ありがとう」と、玄関先での寒い訪問でした。(井上、本多、佐藤)

・60代後半男性。買物帰りのご様子で、声をかけられました。3人連れの名札をつけた者がインターホンを押す姿を不思議に思われたようで、「何か(やってるんですか)?」「あ、週末ボランティアと申しまして、先週チラシを入れていた者ですけども…」「ああ、見たね」「それでこのあたりお話し伺わせてもらったりしてらんです。」と、話していると、無言でお部屋に向かわれたので、一度はこれで終わりかな…と思ったけど「私んところこやけど何かある?」と、お声をかけられたので、お部屋の前まで移動し、玄関前でお話しを伺う。「何を聞かれるんか知らんけど。」「いや、まあ、ここに入られてからどうかとか、震災の時どうやったかってお話しを伺ったりしています。」「あ～、うちは震災ゆうても、この(復興住宅の)近くおったからね、ここ来たんも2年くらいかな。」「あつ、この近くに…。じゃあ、垂水に?」「うん、この近くにおった。やから(震災の)被害は別に。」退職なさり、所得が低い方で、入居なさったらしく「やからねえ、今んところは別に言うことないんやけどね。ま、あのそないにね不便ではないわね、私んところは」ちょっとカーの話をする、「こっちはね、エレベーターつないできたなら、そないにね、坂上がりすることもなしねえ」と言われました。「ここは最初はねえ、震災の後でようけたったけど、最初の1、2棟は普通の企業やらが何か建てるつもりだったらしいよ」「あ、そうなんですか?初耳ですわ、それは」と、会話は続き、他にも、震災があつてたくさんようけ震災(の復興)用の住宅になって14～15階建てになつたらしいよ。とか、「こんなね、平地作つてあつて、山ひらいと一しねえここ」と、苦笑いを浮かべられたり、「まあ、ここへくるゆうたら不便な人もようけおつてやわ。戸数多いし、あまつた…つて言つたら言い方悪いけど。それで一般で入つてこれたんやわ。所得低いし…今、年金で(生活)やつとやわ」「あ～、年金だけだとたいへんですもんね」など話していると、うんうん、せやなあ～とうなずかれつつ、「まあ、私らあの…せやな、45年?もはたらいとつたからね」と、年金は低いけどまあまあ生活できるくらいで、18歳～65歳まで47年間働き、年金41年かけ満額。「ぜいたくはできへんけど、今もらえるからね。(この辺でも)生活保護受けてる人おつてるでしょ。そんな人はえらい(たいへん)と思いますよ」。ご近所についても「この辺空き部屋もあるでしょ、もうね、これから空き部屋増えるやろうしそない被災者も入つてけへ

んし…。」と、おっしゃり、そして「交通費とあって、この辺たいへんじゃないですか？」と、聞くと「そう、そうやね。70前の人ね、買物するゆうたら名谷、垂水でバス往復するからね。私らもう交通費心配せんでいいけどね（苦笑）ありがとういことにね」一息つかれてから「どうもありがとうございました」「いえ、こちらこそすみませんでした。お帰り際、寒いところ…」「いやいや入っても一てもええやけどね、汚いから」と、笑われ、「いや～、うちも汚いですよ」と、こっちも笑いながらのおいとまをしました。（坂本、長尾、長船）

11月23日

・最近、特に体調面が悪く（高血圧・175～110）頭痛と睡眠不足に困っています。（数多くの薬漬け）今日は天気もよいし体調もよい方です。先のことを思えば心配でなりません。月に2回程度大倉山にいる友人と会って温泉とかいろいろ話しをするのが一番楽しみです。（本人記入）

・60代男性、一人暮らし。今日は（週末ボランティアに）来てもらってとてもうれしいです。今後来てください。お願いします。兵庫区の文化住宅で家の畳が三角状態になりその間に挟まって助かった。仮設は西神南で3年も暮らしていた。3年ぐらい前までは山で土木関係の仕事をしていましたが、今は足を悪くして仕事ができない。今後の不安は失業が更に続いていくこと。近くにローソンがあるせいか、家の近所に10～20代の暴走族がうろつき、うるさく、怖い。いつもたむろしている。（佐沢、東條、井上）

・3年前にここに入居。親戚も近い。原付に乗って警備の仕事をしている。最近では自治会の役を引き受けている。自治会は深い付き合いはできないけれどカラオケや食事会で交流して意味（意義）がある。自分は今後ずっとここに住むわけだから（今後三年くらい）引き受ける必要がある。不況の中、条件のよい仕事ではないが、仕事ができているのは、まだよい方だ。（感想：ここが今後ずっと住むことになる故郷としての思いがあり、たいへんな自治会の仕事も引き受けているということ。「ずっと独身、ずっとここに住む」という覚悟がひしひしと伝わってきました。）（水野、華山、猪上）

・昭和23年の福井地震にも遭った。テントで4、5ヶ月4世帯で暮らした。その時は天理教の人が来てくれた。（今回の震災は）北区鈴蘭台なのであまり被害は受けていない。家の壁が倒れているところで住んでいた。（笑顔で元気そうに思えた。）（井上、矢野、浜口、西岡）

・ガンを患われていて、抗がん剤をうっている。その為髪の毛がなくなり、更に味覚障害になってしまいます。その為御飯が進まない。ただ友人からは「とにかく食べた方がよいよ」と言われる。「ちょっとカー」は4時ぐらいまでやってくれへんかなあ、と話しの中で5回程言われる。バス停からエレベーターまでも辛いので使いたい。とにかくここは便利が悪い。ローソンは日用品がないので買物は名谷まで行くが、玄関を出る時から足がそうなるか不安になる。生協の配送サービスを紹介した。炊事もできず食事も友人と一緒に。家の中にいるとうつ病になる。地震は長田区で被災。全焼。パジャマ姿ではきものもせず、体育館でももう場所はなく、仕方なく知り合いの家へ。10月頃に西区の奥の仮設に入れさせられた（別に岡場という選択肢もあったが）。暖房は金がかかるからつけない。下の道にスーパーがあれば便利なのに。隣人がベランダで声をかけてくれる。今は散歩もしているということなので、気持ちの面で少しずつ変わっていくと思うが、身体が心配。（わざわざ我々の訪問のために待っていてくださったそうです。）（井上、矢野、浜口、西岡）

12月14日

・坂道が多くて老年者の多くが足腰を痛める人が多いようです。私も少年の頃より登山等が好きで毎日30km~60kmの山野を歩いておりましたので足腰は丈夫な方ですが、最近少しひざや腰が痛みます。家内は一時(2年前)歩行困難になり現在、家の中で少し家事ができる程度です。食材の買物にもバスを利用しなくてはできず私が買物に出ております。バス券の有料化等の話が出ておりますが私らにはたいへん負担になります。医療費も高くなりました。年寄り早く、死ぬということでしょうか?(本人記入)

・70代男性、一人暮らし。兵庫区新開地で被災、全壊。避難所から仮設へ移り、今の住居へは3年前に入った。10年程前に脳梗塞で足が不自由となり、サービスを受けながらの年金生活。週に2回くらい部屋の掃除や買物などを2時間ほどしてもらおうが「2時間では難しいですわ」と週2回2時間のヘルパーでは足りず困っているようです。ローソンまで買物に歩行器を使えば何とか行けるが、エレベーター前のわずかな坂ですらたいへん。「脳梗塞になってはもう治りませんわ」。震災前は元気で自分の足で何とかしていたが、ここへ移ってからはますます悪くなった。「寝とったらいいんですわ」と。配食のサービスを昼のみ明石から来てもらっているのでも毎日は毎日お弁当。ヘルパーが来た日には食事とか手伝ってもらおう。震災前すでに退職しており、お子さんもなく奥さんとも早くに死別されてそれから一人。「部屋の中なら自由に歩けるがこの足では外に出るのはつらい。頑張ってるんですけどね」「みんなに支えられてここまで来た」と言われるが「自殺するにもこの足では死ねないし、生きるしかない」ともらされた。家賃は安いヘルパー代や食事代とお金がかかって仕方がない。介護保険もよく解らない。下の病院には脳神経外科はなく、何かあったら困る。以前は兵庫区の脳神経外科に通っていたが、今は通えず医者には行けない。「こんなことになるとは思わなかったなー」と嘆かれ一日中テレビを見ることくらいしか楽しみがないとのことでした。(増田、籠嶋、長船)

・60代女性。買物がバスの無料バスを持っているため、名谷まで行くが不便。目は白内障。息子さんが近くに住んでおり孫が来てくれる。スロットやパチンコをするのでよくいかれる。仕事では昼と夜が逆になり、時間が変わっていたのが震災をきっかけに止めた。病院へは兵庫区まで行かれています。(華山、濱岸、井上)

・80代、一人暮らし。被災者入居というわけではなくポートアイランドにいた。目が悪く、両眼を手術し、胃はガンを除くため全部取り除いた。今は元気で50分くらいかけてまとめて買物に行く。一人息子が今の嫁と明石で暮らしていて孫が3人いる。だから一人で楽に用事ができるとのこと。何でも一人でやることにしていっしょやる。近所付き合いは80過ぎで元気がなく少ないが会合があれば行かれる。親戚が大阪で病院を経営しているため、万が一身体に何か異常があっても安心できると思っていたが、つい最近亡くなってしまったと、とても残念がっていました。(佐沢、東條、阪口)

・60代ご夫婦。お話しは奥様に伺いました。最初は「お元気ですか?」とか聞くと「いえいえ、健康は…健康じゃないです」や「困ったこととかがあってあります?」と聞くと「困った…ということはア、困ったことはないです」など、少し困惑したような控えめな感じでしたが、ちよつとずつ話しているうちに話しが弾んでいきました。「ちよつとカーってやってるの知ってます?」と尋ねてみると「ああ、知ってます。知ってます。よく見かけます」と言ってくださりました。震災の時は、賃貸マンションだったが、仕事もなくなってしまったから、こっちの方に入れてもらった。「主人も病気になってしまっただね。向こうで寝てます」と部屋の方に視

線を移された。「たまに主人の気分のいい時は2人で散歩に行くんです」「ああ、2人手えつないでね」と親父くさい感じに週ボラメンバーが反応すると「あはは〜…」と照れているような風に笑っていらっしやった。昨年まで仕事をしたけれど、集中力がなくなってしまいできなくなって辞めてしまった。「急に何かガタガタ〜ってきましたね」と今は、市からの援助で食べていだけがギリギリの生活。「働ける時は働いた方がいいですよ〜働きたくてもねえ、働けないから…」と苦笑され「先のことを考えたら真っ暗です。」今まで仕事一筋だったから辞めてしまうと何もなくて、習い事をする余裕もなく、ご主人と2人だから喧嘩しながらでもやってこれたけど一人になったら…と寂しそうな不安な感じだった。(小波本、阪口、佐藤)

12月28日

・70代女性、一人暮らし。震災当時も一人住まいで、家族はなく子どももいない。電車・バスは無料なので今は不満はない。(中山、坂口、近藤)

60代男性。補欠で当たってすぐ。食べ物も不便。犬を飼っている。免許大型2種持っている。コントローラーゲート開けてちょっとカーが出入りできるようにしてほしい。各棟の入口までしてほしい。(中山、坂口、近藤)

・70代男性、一人暮らし。東灘に居た。マンションは初めてで入居して2年半。泥棒も2件あった。ここに住んでもいいことない。交通も不便。入院中にも泥棒にあった。今も通院している。不審な人も多そう。金貸せという人間もあり、早く出たい。ちょっとカーも特定のところだけでこちらにメリットがない。不公平。(中山、坂口、近藤)

・50代男性。家は全壊し、ポートアイランドの仮設に居た。趣味はパソコン。インターネットを楽しみにしている。就職もインターネットでやるつもり。パソコンに詳しく、我々が逆に教えていただき、話しも弾み楽しい時間が過ぎてよかったです。もともと猫が好きで、震災前から飼っていて、仮設入居後もしばらく落ち着いてから飼い始めて現在に。部屋から花火を見ることができて、夏は涼しい。マリナーズのイチローのものまねをして素振りをして見せたら喜んでいただけました。(小波本、天野、原)

・老夫婦の2人住まい。奥様に話しを伺う。入居は3年くらい前のこと。「こちらの生活はどうですか？」との問いかけには「いいですけど買物とか……。私たちはね、散歩がてら買物とかできますけど……。」としんどいけれども、しんどいとは言わないと言わんばかりの様子。「息子達と一緒に住もうと言うけど、2人で何とかできるうちは元気な間はねえ、2人で〜」と。ご主人さんは引退後もまだ仕事をしているらしく、当面は2人で暮らすんだという意気込みが感じられた。(井上、籠嶋、佐藤)

・4人家族。垂水区で被災。ここには募集で入居。奥様と2人のお子さんに話しを伺いました。「どうですか、ここは？」と聞くと「ここは来るところじゃないわ〜、怖いわ〜、う〜ん。何かあるかわからへんし、どんな人が住んでるかわからへんし……」と前に住んでいたところではなかったことで、どうしたらいいのかと不安な面持ちでした。学校も近いし(子どもさんは後ろで「学校遠い〜」と笑ってました。)、友達がいるから相談もできて何とかやっていける風でした。買物は車で。とにかく治安が悪いとのことでした。(井上、籠嶋、佐藤)

・70代夫婦、2人暮らし。長田区で被災。燃えなかったけど全壊してしまいました。衣類だけでも出せてよかった。「燃えなんだだけ、出せる分は出せたけどな。」語るの、ご自分で出されたのかと聞いていたら、「若いもんが出してくれた。わしらだけでは、どうにもならんからな。

こっちに住んでいる、親戚やら、若いのが、手伝ってくれた。」とのこと。仮設は春日台。「仮設の頃は、働いていたため、市営住宅が当たらなんだ。年金やら、給与で、市営住宅に入れるには、(月間所得が)オーバーしていた」とこぼされたので、詳しく聞いてみると、相談しに行ったら、「他の有料賃貸住宅しか入れないよ」と言われ、「それがいややったら、1回他へ入って、しばらくしたら、また、申し込んでくれ」と言われたとのこと。仮設の頃70歳をこえても現役で働けたため働いていたら、月間の所得が復興住宅に入る水準をこえており、最終的には仮設を取り壊す段階で仕事を辞めて、所得水準を下げてこの復興住宅に入らざるを得なかった。行政が一律に所得でボーダーラインを引っ張っていたことに対して「今後のこともあるし、いつ仕事を辞めるか解らないのに、一般の賃貸住宅にはとても入れなかった。」と強く不満を感じられている様子。現在の住環境を聞くと、「わしは山をやったから大丈夫。やけどもう家内は参ってるわ。長田やったら(平坦なので)ブラブラ買物もできたけど」と名谷駅まで本当は歩いて買物に行きたいのに行けないのが残念だとかかなり健脚であるみたいでした(笑)。ただ、将来に対しては不満があるようで「来た時は元気やったけど、足腰悪くした人もいるわな。」と周辺の地形によって年寄りが歩けなくなり、それが原因で足腰を弱くするとの考え。この時奥から足を悪くされている奥様が玄関まで心配そうに様子を見に来られました。足腰が弱くなることから、他の住宅へ移ろうと考えたことがあるとのことでしたが、「市営から市営へ移られへんからそれもちよっと堅苦しいわな。公団とでも家賃は高いわ。年とると坂がだんだんきつってくる。家内はバス停からエレベーターに来る坂で参ってしまう。2号棟の人でも頑張ってる人もいるけれども、そういう人もいつ倒れるか解らない。口では福祉してます言わないかんけどお金はかけられないから・・・」と話されました。最後に近所付き合いについて尋ねると、「清掃やら何やら若い人が出てけへん。こういう住宅において公共の場所を清掃するとか言っても出てくるのわ70代以上の年寄りばかりやわ。」と苦笑されました。「近所付き合いはできへんな。顔は解っても名前がわからへんわ。いちいち聞いてもすぐ忘れてしまう(年なので)」とまんざら近所付き合いがないわけでもなさそうですが、昔のよき時代に比べれば減ったという感じでした。息子さんもお嬢さんも遠方で暮らしており、自分はお酒が飲めなくなってきて・・・と歓談をしていると奥さんが心配そうに玄関をのぞきき「あなたいい加減にしときなさい。寒いのに・・・」と声をかけられ、辞退させていただきました。かなりいろいろなことを考えている様子で、頑張っている人が救済される行政を望んでいるが、半ば諦めているようでした。お別れした後、下で集会していると夫婦そろって散歩に出られたようで会釈を交わしました。(井上、籠嶋、佐藤)